

真ッ裸の体に海藻をつけて、土人の踊り、その頭上に白き勇渾な入道雲がー。

ふかんど

第22号

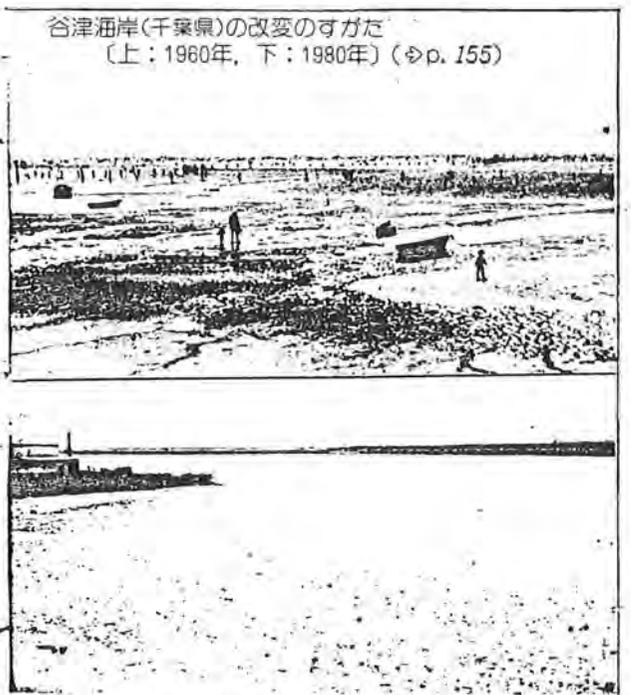
1981.8.7

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五と六
電話 0476-31-1666
文責・作成 森田三郎

講誌年・2000

PRINTED IN
ふかんど

谷津干潟が教科書に登場しました



谷津海岸(千葉県)の改変のすがた
(上:1960年,下:1980年) (p.155)

干潟が埋め立てられ、高速道路になっている。(同位置で撮影)

人間形成の基盤に冬子する自然環境、
か、その結果も現われたのは世代サイク
ルである。か、その時は後キというその。

一橋出版・保健体育
小野三嗣著 昭和57年度使用
(保体004)

2. 自然環境の保全

自然環境からのうるおいのない現代の都市生活では、人々に心のゆとりがなくなり、自殺や犯罪の多い一因となるが、自然の空気・水・土、そして緑(植生)、鳥獣・昆虫、さらに湖沼・海岸などの美しい自然環境は、人の情緒を安定させ、次の日の仕事への意欲をわかすなど、健康な生活をおくるために非常にたいせつなものである。

わが国の自然環境は経済の高度成長のなかで、都市化・過密化、または大規模な国土開発によって急速に破壊されてきた。経済成長優先の考えかたがもたらした自然破壊と健康障害などマイナス面が明らかになり、良好な自然環境の保全への欲求となって広がった。

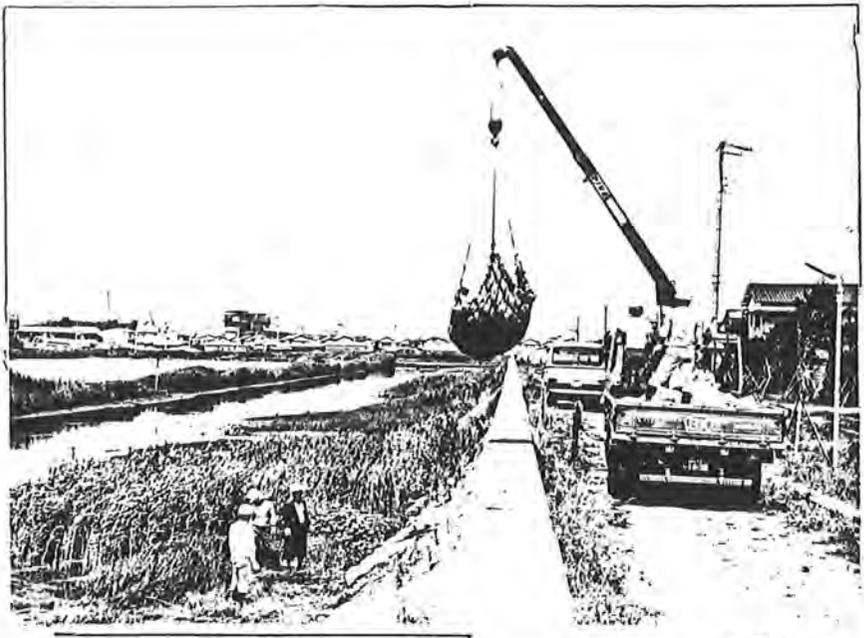
<夏休みの宿題として干潟観察がテーマです。中学生より利用希望の申しでがありました>

谷津干潟ボランティアグループ

7月26日に発足しました。今まで、谷津干潟愛護研究会と美化委員会が行ない、展開してききました。一か、最近、会員以外の人や一般の人から、誰かれを問わずに、

広く一般に公開し、有志を募天ほうがよいという声がかれたようになりました。

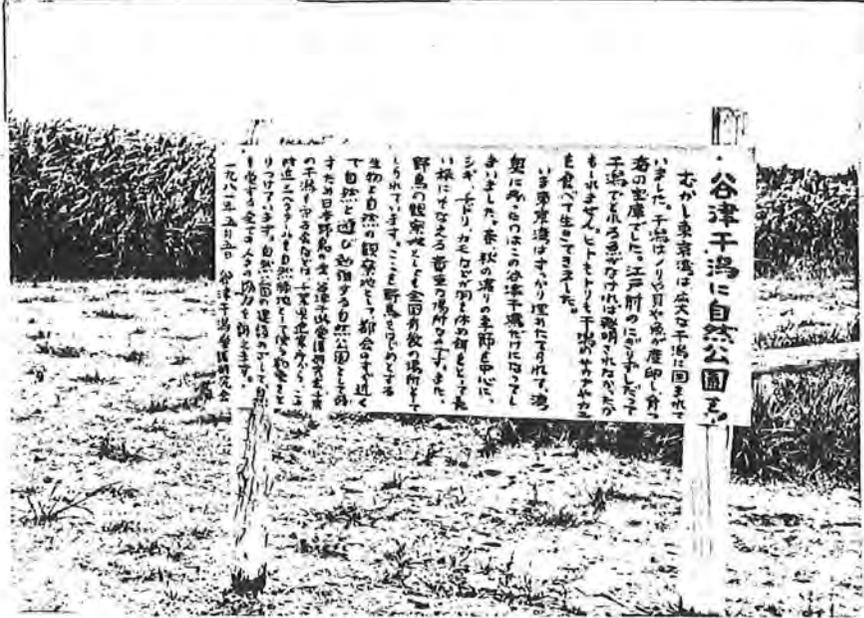
ことより、私たちと会員のみでやろうと限っていたわけではありませんでしたが、ここに至って反省し、改めて地域の市民の方々に参加を呼びかけていく事になりました。よろしく!



32回 谷津干潟 クリーン作戦

うだるような炎天下、汗だくで、四人の主婦、女学生一人、前田建設、竹中土木、そして森田。一感謝!

谷津干潟に
"自然公園"をの看板
本来なら、環境美化・保全の類の看板は行政自らか設置すべきでしょうが、今はボランティアによるか。



◎ 毎週日曜日は野鳥観察舎が一般に公開され、種々のボランティア活動がなされております。是非一度おいで下さい!

谷津干潟

かつて東京湾は、延々百数十キロにわたって広々とした干潟(ひがた)が、野鳥の楽園であった。だが、公有水面埋立法なる法律がまかり通るようになると、三十五年(一九六〇年)に、その干潟が次々と埋め立てられた。一部漁民へは補償が支払われたが、数百万、数千万の人々が春の潮干がり、夏の海水浴、船遊び、そして四季を通じての豊かな自然とのかわり断られていった。

人間だけでなく、鳥たちにとっても、谷津干潟は、かつて、野鳥の楽園であった。だが、公有水面埋立法なる法律がまかり通るようになると、三十五年(一九六〇年)に、その干潟が次々と埋め立てられた。一部漁民へは補償が支払われたが、数百万、数千万の人々が春の潮干がり、夏の海水浴、船遊び、そして四季を通じての豊かな自然とのかわり断られていった。

56.2.24 ヨシウリ 帰ってきた自然 東京の野鳥たち

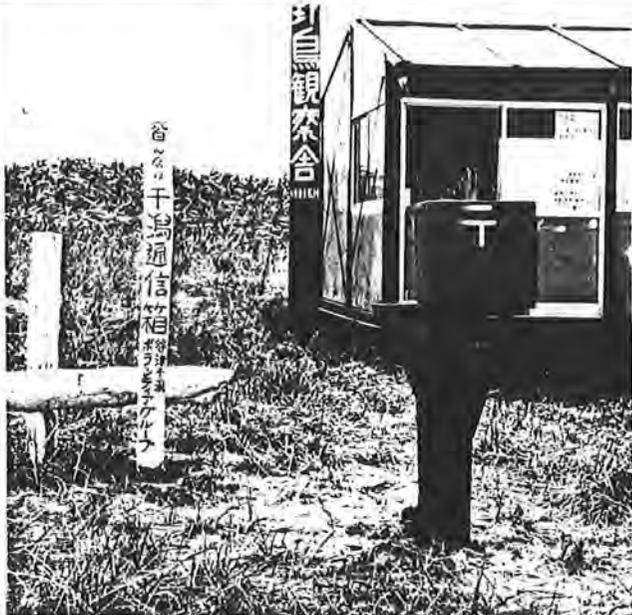
33

谷津干潟に週に一度の割合で通って、鳥たちの観察を続けていた。だが、地元の自治市長が保護区設定に難色をみせ、京成線沿線の所有地である四・四四、中野料理店跡、石川勉さん宅を保護区指定のため、埋め立てることを発表した。

最後のトリデ守ろう

谷津干潟に週に一度の割合で通って、鳥たちの観察を続けていた。だが、地元の自治市長が保護区設定に難色をみせ、京成線沿線の所有地である四・四四、中野料理店跡、石川勉さん宅を保護区指定のため、埋め立てることを発表した。

谷津干潟に週に一度の割合で通って、鳥たちの観察を続けていた。だが、地元の自治市長が保護区設定に難色をみせ、京成線沿線の所有地である四・四四、中野料理店跡、石川勉さん宅を保護区指定のため、埋め立てることを発表した。

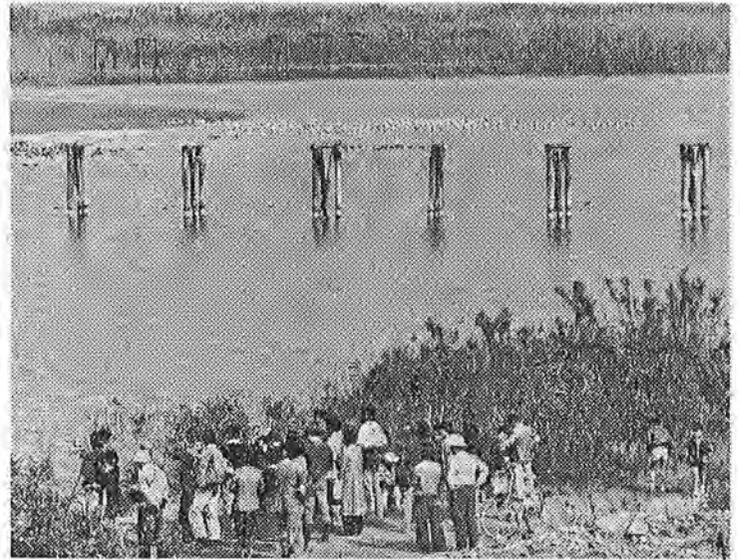


野鳥通信舎へ 谷津干潟のまわり、三ヶ所に設置してあります。 中には、ノートとペンが入れています。 行政に、又ボランティア活動に生かしたり希望。



谷津干潟と野鳥観察舎が必要とされていた

「森田さん、たとえ小さくともいいの、谷津干潟にも野鳥観察舎が欲しいの、何とか作ってくれない」。 思えば、それは6年前から常に訴えられていました。



山林、野を買い取ったり借りあげて、野鳥への餌入れの場、サンクチュアリ(野鳥の楽園)を作ろう。日本野鳥の会が三年前から呼びかけて、資金を募り、その第一号が去年五月、北海道・苫小牧のウトナイ湖にできた。これに刺激されてか、最近、各地の自治体も野鳥が安住できる場所づくりに意欲的になっている。

55.11.4 アサヒ 野鳥に楽園人に安らぎ

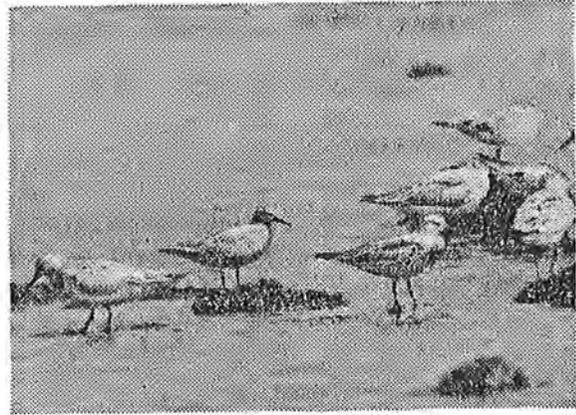
日本野鳥の会が建設しているウトナイ湖のサンクチュアリは、広さ約五百十ヘクタール。湖と河川が半分近くを占めており、大半が国、市有鳥獣保護区に着手した。同市港灣局地。第一段階として、この夏から七千万円の予算で、北側の渚原約五十ヘクタールを保護する。休養(ひがた)の森を築く。小舎を建て、建設している。

自治体の計画としては、福島市児島出水市では、環境が良すぎが二十年後には緑に包まれた街になるのか、渡来するツルが、干潟にしたいと、市庁舎周辺六十六ヘクタールを保護することに決めた。

「野鳥の森」計画を立て、三億円。今年度から百六十ヘクタールの土地にかけて五十七年五月に完成の手配。渡り鳥通過地域の福井県は、存のために市が五十ヘクタールを借り、上野重たの自然学習の場づくりに、自然のままの状態にして、ツルを保護することに決めた。

東京野鳥の会、品川区の東京湾沿いの渡来地として有るが、冬場、狭いので、隣の市場建設予定地の張り網を他県に先がけて禁止し、一部をさいて拡大しよう計画。おろ、さらに県内の湖沼や渚地、すく近くに建設中の大井中央海浜公園(二三・四四)は、野鳥のために鳥たちの楽園建設を目指す。野鳥の会の協力で候補地選定を進めたい。

各地で意欲的 聖域づくりに



干潟で遊ぶオバシギ、コオバシギ。こういう風景も東京湾では谷津が最後になってしまった(日本野鳥の会提供)

石川勉さんは、49年より谷津干潟と京葉港埋立地に、週一回調査に来ています。

夏休みの宿題に、谷津干潟の観察をして、野鳥観察舎を利用している子供たち、ゴメンナサイ！しばらくオマシてね。

ふかんど...夏雨とゆかけ船の返か干潟の沖から、ギンヤンマヤオニヤンマが次々

ふかんど

第23号

1981.8.10

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666
文責 森田三郎

講談(年)2000

PRINTED IN 日本



谷津干潟展

千葉相互銀行
秋津支店

お密さん、よく見て
いくそう、中々好評
だそうです。

秋津・香澄にお住ま
いの方は、最近習志野
市民になった人が殆ん
どです。谷津干潟には、
多くの人が来っています。

「クリーン作戦をしてく
れている主婦の声」

「森田さん、今更企業庁に
気がねしてははいまらないわ
よ。だって、森田さんた
ち、ここまで来ちゃったん
だもの、ソシナ資格なりわあ
ネエー、遠慮なんカーマドウ
スルっていうの。ドンド
ン、ちゃっやいなさいよ。」
「マア、ダケドネー...」

お知らせ

親しみを持た

れ始め、利用さ
れた方が増えて
いる時だけに、
本当に申し分け
ないと思っていま
す。私達は、
企業庁の誠意を
信じております。

野鳥観察舎二カ月で自主撤去

56.8.14 (アサヒ)

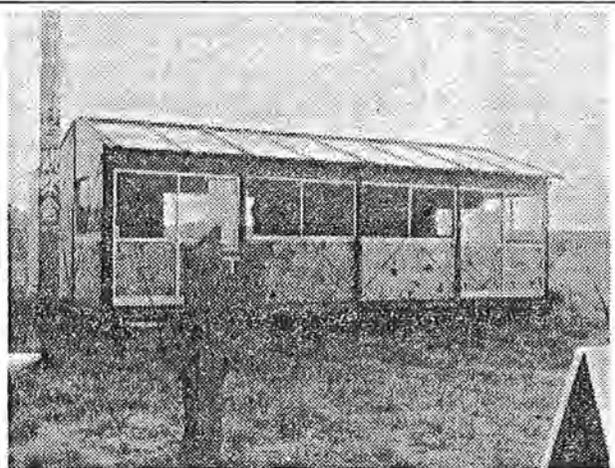
谷津干潟 保護団体が柔軟作戦

保存運動の拠点として、野鳥と、完成からわずか五月余り
愛護家たちの募金で習志野市の
「谷津干潟」に建てられた野鳥
観察舎が、十六日に自主撤去さ
れることになった。土地所有者
である県企業庁から「不法建
物にあたる」として再三、立ち退
きを迫られた自然保護団体側
が、ここで無用なトラブルを起
すことは運動を進めていく上
でマイナスになると判断した
ためだ。これには、「せつかく
利用者が定着してきたのに」

観察舎は約三千平方メートルの簡易
プレハブ二階建て。総工費は四
十五万円。観望用の望遠鏡、鳥

類図鑑、写真パネル、干潟の清
掃道具などが完備してあった。
日曜日などは百人以上の利用者
で大にぎわいだった。

しかし、建設場所が県企業庁
管理地であり、事前に使用許可
を得ていなかったため、同行は
「不法占拠」だとして、同研究
会へ撤去通告を出していた。そ
の後、再三話し合いが行われた
が、企業庁側は先月十日、「通
告通り撤去されない場合は法的
手段(強制執行)をとらざる
をえない」と、内容証明付き郵
便で通知を出した。



撤去されることになった谷津干潟野鳥
観察舎 習志野市秋津で

これについて、企業庁側は「
さか指子抜けた様子。話し
合いにはまず撤去から、とら
うという考えが納得してしま
ったのはうれし」と(同行企業
建設事務所)と語っている。今
後は管理地の使用問題で誠意を
もって交渉に応ずる構えだ。し
かし、野鳥観察舎の完成を待望
していた干潟周辺の主婦たち
の中には、この措置を「余りにも
非情」と悲しむ会員もいて、関
係者の表情は複雑だ。

谷津干潟の野鳥観察舎 16日に撤去、白紙に

県と話し合い

習志野市谷津に、野鳥の楽園、
として残っている谷津干潟に面し
た県企業庁所有地に、「谷津干潟
愛護研究会」(森田三郎代表)
が市民募金を建設した野鳥観察
舎の撤去をめぐり、県企業庁と森
田さんから自然保護団体との間で協
議が進められていたが、このほど
開いた両者の話し合いで、野鳥観
察舎を撤去して問題を白紙に戻す
ことが決まった。

一度、企業庁の希望を百%入って、その後小
ただが、当局と建設する交渉を進めます。

<個人的な事ですが>... 森田一人だけで、埋め立て地に、ウンコを1000回以上しています。だから観察舎とトイレは必要です。

「月刊・ならしの」が早く出るよう、皆さんでお祈りしましょう。



クリーン作戦モテル地区にカモの群が来ました。水草の根、コケ、ゴカイを食べる。

ららぽーと「展望台」に登る

八月十七日に、船橋マゴウの

回転レストランに行きました。

見晴らしはとてきよく、一時間

でひと回りするのこゝろでした。

谷津干潟、埋め立て地、イ
ー、広い干潟の見えた大
きな模りなどをじっくりと。

楽園の子供達

オク話 絵文 森田三郎

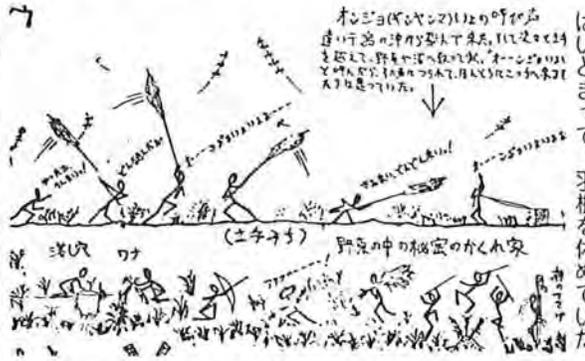
「オンジョいよ——」の呼び声

オンジョとは、ギンヤンマのことである。20年以上も前のこと、谷津干潟のちかくでは、子供たちはもちろん、皆んなそう呼んでいた。

オンジョは、沼や田んぼ、野はらや小川が大好きである。谷津干潟がまだ「ふかんど」と呼ばれていた頃には、そういう後背地がたくさんあった。そこはまた、昆虫や魚たちがにぎやかに生きているすばらしい天国だった。もちろんそこには、ぼくたち子供の生きた教室でもあり、たのしい遊び場だった。

しかし今は、ゴミを捨てられ、みんな消滅してしまった。それが文化的生活の悲しい答えだった。

オンジョイを呼ぶ子供たち
夏だった。晴れた、風のない日だった。房州の山々が霞んでいる遠い干潟の沖から、オンジョたちがとんで来るのだった。それははじめ、黒い小さな点のように見えた。干潟の上を低くとんで来るオンジョは、グングンこつちに近づいて来て、土手道を「ヒョイ」と



オンジョ(ギンヤンマ)の呼び声
谷津干潟のちかくでは、子供たちはもちろん、皆んなそう呼んでいた。

オンジョ網をかついで土手の上に立ったぼくたちは、はるか干潟の沖を見つめながらこつと呼んだ。「オオンジョ、いよいよおーい」と。その意味は、「おーい、オンジョたちよ、みんなとんで来

とび越えるようにして、沼や野原へと散っていった。うちの近くの木の梢にもオンジョたちがいっぱいまとって、羽根を休めていた。

いよ、オレたちは待ってるんだぞおーい」ということだった。子供だったぼく達は、そう呼んだら、その呼び声に連れられて、ほんとにオンジョたちが、こつちの方へとんで来ると思っていたのであった。夏の日差しを浴びて、はだしの、日やけした子供たちのそんな姿が、土手みちや沼や野はらにあった。つがいもあつたし、ぼくは五匹も連らなっているのを見たことがある。ガキ大将の中には、七匹も連らなっているのを見たものもいた。そんなのは、ちよと、ムカデが空をとんで行くようだった。夏の夕方、沼の上空を、ものすごいオンジョの群が、影をつくつてぶつかりながらとんでいることもあった。

オンジョのほかには、ドロボー(オニヤンマ)、ヒラキ(ウチワトンボ)もいた。

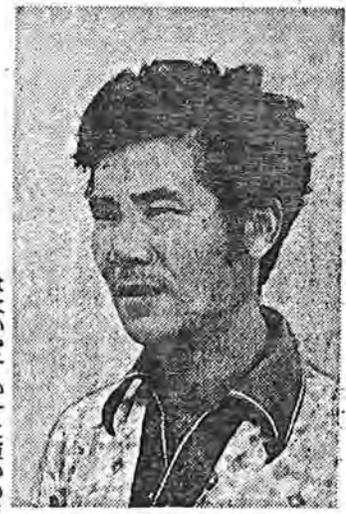
子供たちは、誰でも、秘密のかくれ家、を持ちたがる本能がある。手づくりの、粗末なもの。しかしそれは、苦心の、一生懸命のものである。私たちの場合、それが、野はらの中にあつた。ムツとする草いぎれの、夏草でつくつた。それでぼくたちは、土人やターザンになつたつもりでいた。おとし穴や草のワナは、守るためのもの。ガキ大将に教わり、やがて、年下のものに伝えた。

1981.7.19 赤旗

「私は谷津干潟のセールスマン。」
森田三郎さん
もり た さぶ ろう



千葉県生まれ。1971年、東洋大学英米文学科中退。67年から千葉県市川市で新聞配達員。76年谷津干潟愛護研究会会長。千葉県市川市在住。36歳



「わたしの干潟のイメージジツつのは、赤銅色の子どもがはだして駆け回つたり、トンボがとんでたり。風になびくアシの原っぱなんです。」

すっかり日に焼けた顔。朝刊を配り終えたあと、夕刊配布まで谷津干潟で過ごす日課の毎日。黒くなるの

も道理です。

森田さんが干潟にのめりこみ始めたのは、七年前に見た一枚の新聞写真がきっかけ。それは谷津干潟にくりが打たれている光景の写真でした。

すぐ現地の老人をたずね、「ここは昔、ふかんど」と呼んでいたところで

はないですか」と確かめました。「ふかんど」とは深いところ、の意味。

「子どものころ遊んだきれいな海岸が、どぶ川みたくに汚れてるんですわね。でも、よく見ると、そこにカニや魚がいるんです。サキやカモもいました。これはなんとかしなればと」。森田さんの谷津

干潟を守る運動が始まりました。

谷津干潟は、東京湾の奥深くにわずかに残された自然の海岸線。周りはすっかり埋め立てられました。ここだけたまたま国有地だったため、ぼっかり残りました。いま、谷津干潟は一万羽にのぼる、野鳥の楽園。

「きれいにするには、看板を出してもため。さくも金網もため。きれいにし、ゴミを捨てるのに気がひけるようにするしかないですわね」。干潟のゴミ拾いから、国・県にたいする鳥獣保護区の指定要求、谷津干潟愛護研究会の活動、会報の発行と大奮闘の毎日。言葉にはズシリとした実感が。

「鳥獣保護区に指定されたら、あとは絵本づくりなんかやって、子どもの情操教育みたいなものに打ち込みたいですわね」。海辺で遊んだ子ども時代を思い出すような、やさしい表情でした。(冒)

企業界に「京葉港地区の不法投棄物の清掃の要望書」を提出—ました。(七月二日)

- 一、埋め立て地のゴミを全て撤収すること。
- 二、企業界肉係の工事によって出た、水路・干潟内のゴミ、及びその周辺のゴミを全て清掃すること。

おとしろかった本は—

「自助論」
サミュエル・スマイルズ

「ザ・サミングアップ」
サマセット・モーム

「フェアウェイの彼方へ」
ホビー・ジョーンス

へ楽園の子供達は、月刊・ならしのしにて連載—たさののです。ご協力有難うござります。▽

◎ ちょっと一言 船橋卸団地組合会館前に「いそしぎ」というお店がある。そこに谷津干潟の鳥のパネルがある。「日曜はダメよ、

へッギヌカユエナア、三郎うお前やあ、土人ヤコジギミテ丸いヤウカア、あんまり女をヤンカッカリさせ

ふかんど

第25号

1981年
8月25日

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

年講誌 2000

PRINTED IN
ふかんど

ある日のフィールドノート
から

ニユートンと

クンの落ちるに、

気がつかず

しみとみと

見了のモノゲン

なれば、い

一九七六年 コアジサシ

シロキドリ・コキドリ

繁殖調査より



楽園の子供達

第8話

干潟のカレイつき

絵と文 森田 三郎

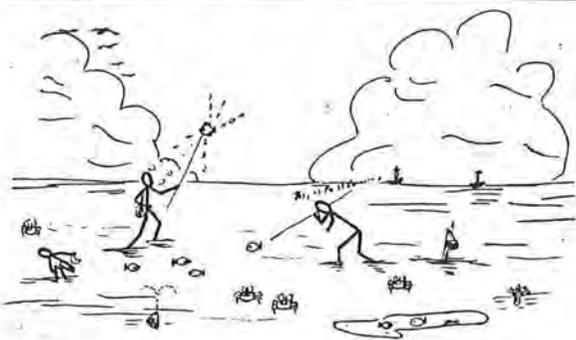
初夏、干潟からの呼び声である。生暖い海風が、やわらかく吹く頃。ほくの家、庭と、わらびき屋根の大半は、燃えるような緑の木の葉におおわれた。

土手道を越え、干潟へ走った。干潟には、どこもかしこも、小さなカレイたちが、いつばい泳いでいた。くるぶしからふくらはぎくらいの高さ、浅いミネ(溝)や、潮溜りの中は、カレイだらけだった。

パシヤパシヤと、水音を立てて歩いて行く。すると、砂の色をしたやつが、てんでに、かつてな方へ走って行った。

カレイたちは、泳ぎ出すとき、バツと砂を舞い上げ、スーとすべるようにして泳ぐ。そしてまた、止まったときにも、ヒレを二、三回ヒラヒラと動かして、砂を舞い上げる。すると、砂が落ちてきて、カレイの体をすっぽりと包みかくしてくる。だから、砂地との見分けがつかなくなってしまうのだ。ジーと見つめていると、カレイの方も、そこから目だけ出して、キョッキョッキョと、ほくを見ていた。ほくたちは、自転車のスポークや、太い針金をとがらせ、それを竹の棒にゆわえつけて、モリを作

月刊・なぐりーの



潮かせと浅瀬、ヤーンと小さなカレイ。子供だった私は、ヤカク来た夏を想い、うしろくわって胸をときめかせました。

園児らと共に
一九七七年の九月。当時まだ松葉杖をついておりました。六月に交通事故を起こし、足の骨を研いでしまいました。退院して間もない時、袖ヶ浦田地の幼稚園児といっしょに、おばらしい秋晴れの谷津干潟に行きました。私か園児の年令の頃を想い出しながら、

ヒナを抱くコキドリ
ここは、ダンブカーが走るその道路ばたなのです。タイヤの所から、一米も離れていないのです。暑さの為、くちばしをあげている。



「干潟の想い出」のイラスト販売中(新聞紙大) 一部三百円・送料二百円です。

●私産は、人間のみなならず、魚やカニ、貝やゴカイ、渡り鳥、そして水草やヨシやガマ(草)などにも、環境権を認めます。

ふかんどー潮だまりはシヤコの穴だらけ。指をつこんで出入りするよ、シヤコが別の穴

ふかんど

第26号

1981年
8月27日

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五五六
電話 0476-116668
文責 木村三郎

2000年読年講

PRINTED by
ふかんど



谷津干潟 空をおおうハマシギ

野鳥の楽園

さら、飛び立ったぞ、シギの大イサギ、オナガガモ、ユリカモ群だー。野鳥の楽園として知られ、ウミネコなど二千羽強が羽を休め、カニや貝など豊富なエサ面をおおうようなハマシギの群をついでいる。

この干潟も「都市整備に埋め立て」される。シベリア方面から「てたい」とする習志野市と「数少飛来して越冬、六月ごろには帰る」ない東京湾岸の野鳥の楽園。ぜひが、数方の群れは、まさに旺盛。残してと訴える自然保護団体とほかに、キアシシギ、イソシギの間立つ国も、「鳥獣保護区指定」を決めかねている。

谷津干潟と、国民、県民の一人として生活権があります。

〈今秋の渡り鳥が来始めています〉



谷津干潟野鳥観察会 一時休止のお知らせ

六月下旬以来、野鳥と自然とを愛する谷津干潟に親まれた谷津干潟野鳥観察会。設置に際しては、千葉県と合同で、谷津干潟の自然環境を保全し、観察の機会を増やすことと決まっています。しかし、この夏は、大雨や台風の影響で、観察の機会が減少しています。また、観察の安全を確保するため、観察会を一時休止させていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

我々は再び
帰ってくる

皆さんのご理解と、ご支援を御願ひ申し上げる次第です。

谷津干潟の環境保全は、行政のみならず、市民の協力が必要です。多くの市民が協力して、環境保全に取り組んでいくことが、谷津干潟の環境保全に不可欠です。



夏休みの宿題に...

「森田さん、谷津干潟の渡り鳥は、どんな生活しているの？。どのようにしてヒナを育てているの？」と聞かれました。連れ帰った喜び、とておどろいていました。

谷津三丁目の前面

（とくにクリーン作戦モデル地区を中心として、テニスやベンチのある前の干潟には、水辺の草と体操がニ、アシハラガニに象徴された。よく、いろいろな干潟の生物がすむようになりまし。これは、干潟にとつとてよい事なのです。

8月24日

The Book

私の事業し
早川徳次
我が闘争し
アドルフ・ヒトラー

●ここ数年、谷津干潟を学校の課題、そのテーマに選ぶ生徒が小・中・高ともに増えました。

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会

シロチドリ等と共に

東京海岸の埋立地におけるシロチドリ・コチドリ・コアシサシのコロニー



島西埋立地：夏鳥の下に2千以上の鳥があった。

千葉県市川市
森田 三郎

かつては広大な干潟に恵まれ、夏はシロチドリやコアシサシが卵を産み、冬はガンが渡り、ハシロの群が切りかえすようにシロチドリが飛び回っていた東京湾も、今はほとんど自然の干潟はなく、浅瀬や埋立地によって見る影もない。しかし、その埋立地に、夏になると、コアシサシやシロチドリが、ブルドーザーのキャタビラにおびえながらも巣を作る。

シロチドリ、コチドリ、コアシサシの全営巣数を調べた。これら三種の鳥がいかに干潟にかかわっているかを明らかにして、彼らの繁殖環境を保護する資料とすることを目的とした。これらの干潟の中でもとくに私が強い関心を持っている谷津干潟(52真地地図参照)が、休息場および産卵場として重要性が高いことも明らかにしたかったのである。

七五年は、果樹の植栽に未熟な点があったので、ここでは主として二年目の七六年夏の調査について記すことにした。

表 コアシサシ・シロチドリ・コチドリの果樹数。1976年4月10日～8月20日調査。表中の上段は果樹の数、下段は卵の数(●)を示す。

埋立地	コアシサシ	シロチドリ	コチドリ	計
谷津・京葉港	2,391 5,384*	2,508 7,338*	77 233*	4,876 12,955*
浦安	214 578*	531 1,524*	19 71*	764 2,173*
葛西	1,247 3,275*	1,063 3,049*	67 238*	2,377 6,562*
計	3,752 9,237*	4,102 11,911*	163 542*	8,017 21,690*

た。確認した果樹には全て、巣から一定方向一定距離に、割はし大の棒を立て、重複して置かないようにした。調査時間は、仕事の合間である午前9時から午後3時までと、休日を完てた。

以下、七五年と七六年の調査で気がついた点をまとめてみた。

コロニー 1
地理環境―営巣の状況
非常に多くの営巣が確認されたコロニーは、埋立地においてサンドパイプより土砂が噴き出された所か、広い面積にわたって地ならしがなされた所に作られた。砂に貝殻が程よく混り、地面は白っぽく、やわらかい。水はけが良く、乾燥しており、夏の太陽が強烈に照りつけ、ものすごくまぶしくとても暑い。砂漠の様な場所である。強い風が吹けば、砂嵐がおきる。砂が舞い上がり、大きな砂のカートンとなって走ってゆく。たたきつける砂の音に身をこめてしまふ。熱いサラサラした小さな砂丘があらに有り、サタサタと足がめり込む。雨上がりの後は、立ちこめる水蒸気、モヤにスモッグと包まれてしまい、何も見えなくなる。そんな所にコアシサシやシロチドリは、地面におわん型の穴を掘って卵を産むのである。貝殻は敷かれたように無散に散らばっており、周囲よりやや小高い。

果 1

二種の鳥の同居
一つの果の中に、二つがい以上のコアシサシが同居していたものが幾つもあった。卵の数にして5/9個。同じ時に産卵したと思われるものも有ったし、新たに加わって産卵したものもある。又、コアシサシとシロチドリが一つがいずつ、あるいは、コアシサシ二つがいにシロチドリ一つがい、合計三つがい一つの果の中という例もあつた。こういうものは一般的に果が大い。同居の傾向は、コアシサシの方がはるかに強く、シロチドリの同居は二、三のみであつた。そして、数個の卵を残して皆無事に孵つたのである。



“生きている”卵(左)と“死んでいる”卵(右)

生きている卵は、斑点、模様等がはっきりと上がつている。地表も日光の反射も一面的でなく、砂もやわらかい。丁度ジュークツツを逆さに撫でるよう、あるいは土起しをした細を遠くから見るようだった。死んでいるコロニーも、全然、あるいはごく少く、所見も砂も、ビタリと凝りこもっている。感。だから地表全体が平面的で固く、光の反射も一面的で、生きているものよりまぶしい。貝と砂がなる小さな凹凸が無い。めだら。水を流したあとそのままに、ジュークツツの毛をビタリと撫でつけたよう。

果の露出している所が多くなる。植生と除去が増えて来て、やがてコアシサシとシロチドリの数は激減する。地面も固くなってゆくし、辺り一面音むす所さえる。ほんの少しでも貝が露出すると、あたかもそれを押し進めるかのようにコアシサシを中心に卵を産んでゆく。温って水気を含み、プロポロしていても、草原のようになってしまつと、シロチドリでもほんの少ししか営巣しない。ここで面白くないのは、それは、75、76年共営巣数が次第に増してゆき、ピークを過ぎ、少時すると(10・15日)、今まで余り自立たなかつた植生が急に繁茂し出し、目につくようになることでもあつた。その年の気候に合わせて、双方のタイミングが相互に呼応するか如く起るのである。長い夏年にはピークもゆるやか、短い夏年にはピークも急という具合に。そして、植生もそれに合わせていふ具合に、コアシサシ達はその年の気候を予知していたのだろうか？

新しいコロニー種、地面が白っぽくして明るく、そしてやわらかい。見張らしもさくし、広々として植生は全く無い。コアシサシもシロチドリもこの時に最も多く営巣する。特にコアシサシはさうである。月日を凝ると次第に雨や風で地面は削られ、すそ野が広がり、

果の大小と深淺―地面の乾燥―貝殻の敷き具合
コアシサシの果は概して浅く、そして小さいので地面からの卵を出し、見つけやすい。全く穴を掘らなかつたり、貝殻も敷かず、無造作に産卵するものも多かつた。足がめり込む程に水気の有る所でもドク／＼営巣した。しかし、大体さういう所は貝殻も敷くものもある。

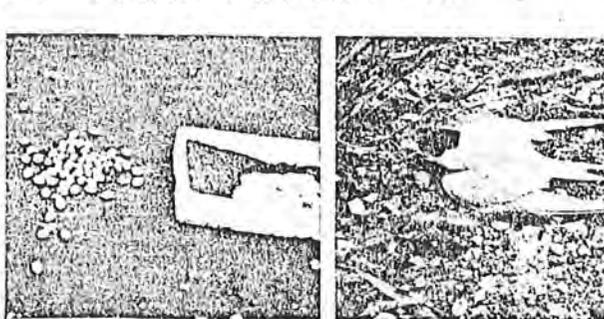
果 2

シロチドリの果はコアシサシに対して、深く大きい。時にはバカでかく、地表よりかくれているものが沢山有つた。貝殻も少なく、キチンと敷く傾向はコアシサシより少ない。果は穴も感じられるものも多く、湿気が有つたり黒っぽい地面の所、地理環境の悪い所でも良く営巣する。コアシサシの果より冠水の危険が少ない所が選ばれる。

果の大小と深淺―地面の乾燥―貝殻の敷き具合
コアシサシの果は概して浅く、そして小さいので地面からの卵を出し、見つけやすい。全く穴を掘らなかつたり、貝殻も敷かず、無造作に産卵するものも多かつた。足がめり込む程に水気の有る所でもドク／＼営巣した。しかし、大体さういう所は貝殻も敷くものもある。

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ



いたづらに集められ、捨てられていたシロチドリ等の卵。

果 3

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

果の保護色―足跡―わだち―コールドール
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配つた。一通りやれるだけのことはやつて来た。そして効果は大きかつたのである。カヌメ網を張つてはる人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ

いたづらに集められ、捨てられていたシロチドリ等の卵。

「野鳥」52年4月より転載
「ふかんど」18号・25号参照
スペースの都合で字を小さくしてあります。でき、貴重な記録であり、二度と体験する事はない。

(繁殖調査シリーズ 2)

へ小かんじー谷津干潟に、大きな海がメヤイルカ、トビウオやタシノオトシゴが泳いでいた頃……

ふかんど

第27号

1981年
8月29日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666
文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

入浜権宣言

古来、海は万民のものであり、海浜に出て散策し、景観を楽しみ、魚を釣り、泳ぎ、あるいは汐を汲み、流木を集め、貝を掘り、のりを摘むなど生活の糧を得ることは、地域住民の保有する法以前の権利であった。また海岸の防風林には入会権も存在していたと思われる。われわれは、これらを含め「入浜権」と名づけよう。今日でも、憲法が保障する、よい環境のもとで生活できる国民の権利の重要な部分として、住民の「入浜権」は侵されてならないものと考えられる。

しかるに近年、高度成長政策のもとにコンビナート化が進められ、日本各地の海岸は埋立てられ自然が大きく破壊されるとともに、埋立地の水ぎわに至るまで企業に占拠されて、住民の「入浜権」は完全に侵害されるに至った。多くの公害もまたここから発している。

われわれは、公害を絶滅し、自然環境を破壊から守り、あるいは自然を回復させる運動の一環として、「入浜権」を保有することをここに宣言する。

昭和50年2月21日

取りもどそう、海どのかかわり 第四回入浜権シンポジウム

会期	1981年8月22日(土)午後—23日(日)
会場	神戸市立舞子ビラ(宿泊とも)神戸市垂水区東舞子町18-11(電)078-706-3711
主催	入浜権運動推進全国連絡会議・入浜権研究法律家グループ
協賛	「取りもどそう、海どのかかわり」
目的	入浜権を確立するために——入浜権行いまむかし
22日13:00	開会 挨拶……………法律家グループ代表世話人・田中 唯文
13:30	発題報告 「入浜権行蒐集と第四回シンポの意義」 連絡会議代表・高崎 裕士
14:00	報告 「各地の入浜権行(現在の海岸利用含む)」法律家グループ・前田 貢 ほか 高砂の会や法律家グループ等団体の蒐集調査から、連絡会議に寄せられた投書から、その他、出席者から海どのかかわりについて入浜権行や思い出、海浜の利用状況を発表してもらい記録する。
16:30	特別報告 (1)「神社の神事に見る海浜の意義」 郷土史家・明石南高教諭・玉岡松一郎 (2)「渚と釣りびとの長い関わりあい——文献に見る江戸時代からのアオギス釣り」 日本なぎさ保存会関西事務局長・小西 和人
18:00	夕食 (食後、舞子海岸を散策)
19:30	特別報告 (3)「大阪湾域の沿岸利用と環境計画の関係について」 (共同報告・スライド使用) 神戸大・大阪芸大講師・H. シャピロ 神戸大学工学部環境計画学大学院生・岡本 祥浩
23日 9:00	特別報告 (4)「アメリカの沿岸計画者の目から見た日本の海岸問題」 California Coastal Commission, Principal Planner, Thomas A. Zanik (カリフォルニア沿岸保護計画委員会、チーフ・プランナー:T. ザニク)
討議	「入浜権行をもとにどのように運動をすすめるか」 助言 法律学の立場から 立教大法学部教授・淡路 剛久先生 民俗学の立場から 民俗学者・谷川 健一先生 地域計画学の立場から 長崎総合科学大学教授・白砂 剛二先生 全体のまとめ
12:00	開会行事 決議・アピール等採択 (12:30 閉会)
14:00-18:00	ポートピア81 批判的見学会 その後宿舎(神戸海員会館)で討論集会

充実した、とても有意義なシンポジウムでした。高砂の皆さん、本当に有難う。感謝。

千葉にと入浜権の聖火を燃やします

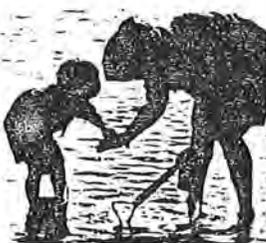
秘々はそれを"食料"とし、そして"血肉化"してゆき、ついに"体现"せんとする者である。

八月に第四回入浜権シンポ 海辺の生活 古今東西

初めての入浜権行の
全国調査開始

入浜権運動推進全国連絡会議はこの八月神戸で、入浜権研究法律家グループと共催して第四回入浜権シンポジウムを開く。テーマは「入浜権を確立するために——入浜権行いまむかし」でこれに、海浜とのかかわり取り戻そう、というキャッチフレーズが付く。

入浜権行というのは海岸近くの住民が四季折々に、あるいは日常的に海浜に出て折々来た生産・採集・休息・慰楽・信仰などの行事や慣習を言い、伝統的に入浜権と海水浴・潮干狩り・釣りなどの近代的入浜権行を含むものである。漁業も当然大きな入浜権行であるが、漁業権をタテにして海を守ろうとする運動と連帯して、陸(オカ)の側から海浜を破壊から守ろうとし、そのためのテコとして広く一般住民の海岸にかかわる権利を要求する入浜権運動であるから、専ら漁業者の漁業権行は



高崎裕士

別種のものとして、ここでは扱わないことにする。

様々な海浜利用

入浜権運動が兵庫県高砂市で生れて七年を過ぎるが、早くから入浜権行の蒐集調査は運動の重要な部分を占めていた。昭和五〇年九月の「〇〇〇人証言葉——高砂の海いまむかし」の発行は大きな意義を持つ。そもそも入浜権という言葉自体が、古老の語る「以前は嵐の後などに浜に出て流木を集めて焚木にしたり、打ち上げられた貝や魚を拾った」という話から、山林の入会権に似たものが海浜にも存在したと考えて着想されたのであった。その後運動を進めて行く中で、入浜権は入会権よりはもっと幅の広いものと考えられるようになって来ているが、入会権的

要素は依然重要である。そして当時、私にはそれをさらに多くの人々の証言によって裏づけようと思ひ、五〇年の初夏から聞き取り作業を行った結果が「〇〇〇人証言葉」である。その証言内容を分類すると、

- ① 民俗行事や古くからの慣習と考えられるものとして寄りもの拾い・節供(しんがさん)にちその他・土用の丑の尻つけ・精霊流し・大晦日の拾掘り・秋祭りのみこし洗い・弁天祭、② 近代的なレクリエーションとして、海水浴・潮干狩り・釣り・散策があり、その他地形・景観に関するものや生態系に関するもの、精神性、教育的価値に言及したものである。
- これによって海浜というものが、明治以降、海水浴などで民衆の最も健全なレクリエーションの場として親しまれてきただけでなく、数々の民俗行事や神事の形で古来住民の日常生活にも精神活動にも切りはなせないものであったことがわかる。すなわち海浜は単に生産のためだけでなく、民衆の休息・交歓・信仰の場として、物質的にも精神的にも海からの恵沢にあずかるところであったのである。
- 民俗学者谷川健一氏はこうした点から、入浜権運動は近代的な権利要求運動であるにとどまらず、何千年も続いてきた日本民族の精神構造の根底にかかわるものと評価された。そのように一〇〇〇人の入浜権証言は、入浜権と

環境権の壁の突破口

その入浜権行を今夏のシンポジウムであらためて取りあげることにになり、高砂の証言葉に加えて、全国の慣行蒐集の活動が取りくまれている。そのわらいは何なのか。

最近、自然保護や反公害の住民運動は困難な状況の中にある。環境権裁判もまた各地で苦戦を強いられている。そんな中で理立ててや海岸破壊に反対して闘っている人々の目から見て、民俗学的な手法を用いての入浜権行蒐集調査はきわめて迂遠なものに見えるかも知れない。はたしてそうか。

「渡り鳥は見られず」

に谷津干潟に来りません。のではありません。

谷津干潟に、渡り鳥の観察に

訪れた野鳥の会の会員が、なごに石や空カン・空ビンを投

年を度って増えております。げているのを見たりして、何の

。しかし、ゴミが散らかっ。注意をしない人が殆んどです。

ていても、捨てたりするのを。その人がどこの会員であらうと、

見ても、又、カニや魚、鳥 財産は注意して取りまします。

こ木から釣りのシーズンです。例年ゴミがたくさん出ます。釣り人のゴミも拾いましょう。

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会

京葉 地帯

全シースンにわたり海鳥調査

「荒廃の干潟」の野鳥の生きざま



きよとも埋め立て地で野鳥の営巣状態を調べる森田さん。船橋市の京葉港造成地にて

【船橋】東京湾の奥陸部といわれる京葉港の造成地。海浜、浦らと兵に」と題し、最新号の日本安、葛西などの埋め立て地は、野鳥の会の機関誌「野鳥」に掲載された。そして「これほど広範囲といわれているが、こども全シースンにわたり調査した記録は日本に初めて。貴重なもの」と

二年間コツコツ

船橋の二万個の卵見守る 一青年

注目を浴びている。愛護週間における野鳥と自然の保護に情熱を傾ける青年の話。青年は千葉の干潟(ひがた)をめぐり、自然の干潟は、しゅんせつや埋め立てで姿を失ってしまっている。この埋め立て地は、かつては、海があった。学校から帰ると方々にコアシヤシやシロドリなどが

「敏系能調査シリーズ」 連絡は 森田 田中

おもしろい本です

「現代生活と ストレス」

ハンス・セリエ

「ヒトラーユークメント」

ヤーコフ・ザール

「実業五十年」

藤原銀次郎

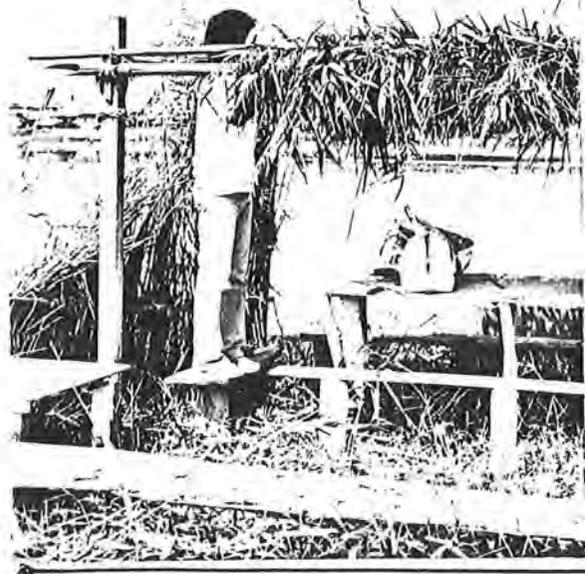
随想

自然保護運動の活力、 ぎ頃の想い出、 フとめ帰 精神力の源と泉、 イハは、 リの母の、 「あのかかん 松の場合、 孤独と静寂に だ後姿一背中」をフト思 ヲの根柢をなす。 う時である。 心の平安こそ、 燃ゆる イハは、 私をとりまく が如きバイタリティとい すべしを流し流し、 私を ススピレイション、 集中、 あよべを祈におき、 何 ヲして、力の泉である。 者であるかを教える。

時々こんな事か... (ヨミウリ 55・525)



く工人小屋の修理 谷津干潟の名物。学星が手 依ってくれました。



「私は自然保護の野鳥、干潟について専門家でない。こころの記録も学術的な調査や研究のためにはなっていない。その資格もない。干潟で遊ぶ少年時代を振り返ったのです。それにしてもコロニーの営が毎年増え続け、カスミ織を張ったり、鉄砲で撃つ人もいた。野鳥の巣や卵を大切にしよう」と、森田さんは強く訴えています。

小かんざり海に出すやえは、直々裸で、オチンチン出して、へっちゃらだった頃のこと

ふかんど

第28号

1981年 8月30日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0571-1666八
文責 森田三郎

講読年2000
PRINTED IN
ふかんど

「入浜権」という言葉は、市民の間から生まれ、専門家や弁護士、学者など、いわゆるオチンチン機の上で、頭の中で考え出たものではありません。

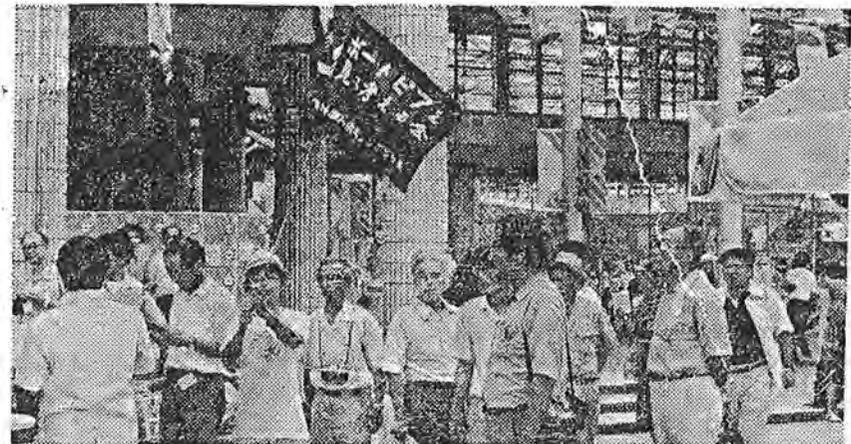
かつての、あの白砂青松の高砂の海に親しみ、いさくなまフリ事を、日常生活のごくふつうのこととして、当り前のこととして自然にかかわりを持ってきた、そんな人々の間から出てきたものです。

その海への立ち入りを禁止され、青き遠浅の海とそこにすむ生きものたちが、工場から出される下水の為に、しよ油色に汚され、魚がまきまきれに死んでいくのを、目で、体で知った市民、高砂の人々の、海への想い―悲しみと怒り、胸の奥底からありとあらゆるものを払いのけ、力強く、かつ清明にほとばしり出たその、イムカ、「入浜権」という言葉だったのです。

豊前の松下竜一氏が言う、「ちく言葉でいい表わしたり、改めて申し伝えるのさ口はばったい、何ら特別にとり立てて言う事もない、ありふれたことなのです。」

(ヨミウリ 1981.8.25)

「海を取り戻そう」膨らむ輪



神戸ポートピアの批判的見学会をする入浜権シンポジウム参加者

「の話を紹介した。小西和さん五郎は、週刊釣りサンデーを出している。入浜権運動を当初から、熱心に支えて来た。小西さんは、釣りの立場から「アオギスを天然記念物に」という運動を提唱し、展開している。

「入浜権」シンポジウム

- 海水浴場
- アオギス
- 大量消費
- 記念物に
- こそ原因
- が消えた

身近な告発に共感

い、励まし合っていて、力をたぐわえつつある。そこに、住民運動の一つの形を見る事が出来る。

「入浜権」という言葉が生まれたのは、さる四十八年十一月。万民のものであるはずの海が、埋め立てや工場群の誘致で人間とのかかわりをこぼみ、人がなごさに入ること出来なくなっている。それは間違っていないか―との素朴な疑問を抱いて、兵庫県高砂市の市民から起こった運動である。

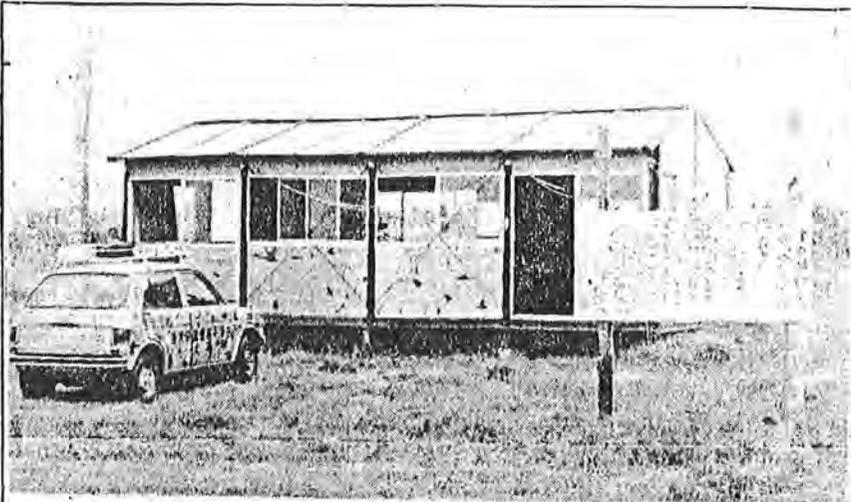
運動は、地味ではあるが、着実に続いている。一つの輪がもう一つの輪を生み、輪と輪はつながり合

(入浜権シンポジウムに参加して)

谷津干潟の鳥の情報

八石川勉氏の調査による

シロチドリ 122
 メダイチドリ 504
 ダイセン 189
 キヨウジョ 109
 シギ 109
 トウネン 484
 ムサグロ 9



近く自主撤去される谷津干潟野鳥観察舎—8月7日写す

チュウシャクシギ	9	キリアイ	1	キアシシギ	227
ホウロクシギ	4	オバシギ	19	アオアシシギ	43
ソリハシギ	22	ミュビシギ	2	ハマシギ	8

習志野にオットセイ

舟は、谷津干潟の東水路出口に近い砂浜である。

朝日新聞 一九八二・五・二八

京葉港に姿をみせたオットセイ—習志野市西浜で、市川市本北方千目、森田三郎さん写す



彼は自由を楽しんでいる!?

よほど、ここが気に入った
 らしく、昼夜をこらしていた。
 荒井会員の通報を受けて。

はぐれオットセイ

習志野

「あれ?! 見慣れない海獣がいる—」。さる日、習志野市西浜の京葉港に、野生のオットセイがいるのぞき、「谷津干潟」を守る運動を続けている森田三郎さん(57)が見つけ、カメラにおさめた。この珍奇、ゆづり干潟内を泳いで魚を食ったり、砂浜で昼寝したり、愛敬たっぷり。人が近づいても逃げず、かえってキバをむいて向かってくる。オットセイは



森田さん(57)の観察によると、オットセイは体長約二メートル、黒っぽい茶色の毛皮に身を包んで泳いでいた。二匹の距離に近づいても逃げず「プー」とキバをむいて威嚇のポーズをとって元気で、エサが豊富なため、同港に迷い込んだりして

国は推進、渋る習志野市

下水工事費負担で暗礁に

問題となっている谷津干潟は京成線谷津遊園駅から徒歩十分ほどのところにある。東京湾の奥に位置する唯一の干潟で、面積は十三万坪。秋から冬にかけて、シベリアなどからカモ、サギ、チドリなど二十数種類の渡り鳥が飛来し、中にはフイリン、オーストラリアなどで越冬するために立ち寄り、奇の類も含まれている。ビークになると数万羽にも達する鳥が集まり、わが国でも屈指の「野鳥天国」として、その価値は高まるばかりである。

習志野市では昭和五十三年以来、直接または千葉県企業庁を通じて、習志野市に対し、同地域を同設鳥獣保護区域に指定して谷津干潟の自然とそこに生息する鳥類を守ろうとする意向を示してきた。もし同地域が保護区域に指定されれば、鳥獣保護法により捕殺の禁止や鳥類の繁殖を促すための施設の設置などができ、鳥や愛鳥家にとっては自然破壊から守る力強い「パルク」になる。ところが、習志野市はこの同設鳥獣保護区域に指定する意向を示さず、その理由を第一に干潟に流れ込んでいる下水処理工事の費用をどこが出すかという問題である。この下水の放つ悪臭に付近の住民

から苦情が頻出しているが、その処理に膨大な費用がかかり、同市としては国が保護区域に指定するならば国の予算で断って欲しいとの意向を示した。ところが、国は習志野市の予算で処理をせよという意向を示し、双方の見解は平行線のまま。

また習志野市としては干潟を埋め立てて公共用地として利用したいとの都市計画をもっていることも上げられる。同市としては市民の生活も考慮しなければならず、鳥獣保護一辺倒というわけにもいかないらしい。

この結論については日本野鳥の会千葉県支部の高橋敏夫支部長は、「自然保護のためとはいえ、非があるのはもちろんだ。観察舎を撤去することにより、正法でこれからは本当の活動が始まる…」と語っている。

そもそも谷津干潟の保護区域指定の要請に関しては昭和五十年、五十一年に民間の自然保護団体から習志野市議会に提出され、二度とも不採択になっている。こうしたことから自然保護団体としては、やむなく観察舎を建てたもので、自主撤去した後、同設鳥獣保護区域に指定する意向を示すよう希望している。

この問題に関して同市企画調整課管理係長、小林伸二氏は「谷津干潟は鳥の埋め立て計画の地域であったが、国有地ということで、手つかずのまま干潟という形になった。干潟にゴミが捨てられたりして汚染されたりするのは国の責

…とととと
 下水対策
 は、自治
 責任で行
 うとのなの
 ですが—。



渡り鳥の生息地として愛鳥家の間でよく知られている千葉県習志野市の谷津干潟の保護区域指定化の是非をめぐる、ホットな論争が展開されている。環境庁は習志野市に対して、開設保護区にしたい、との意向を示したが、習志野市はなかなか首肯を返さず、市民は呼びかけ、谷津干潟の開設鳥獣保護区域指定実現に向けて運動を開始するという。果たして、同地域が保護区域に指定されるかどうか。当分環境庁と習志野市とのかけひきは続きそう。

野鳥天国、谷津干潟

なるか「保護区域」指定

(世界日報 56.8.17)

● 毎週日曜日は、「谷津干潟・ボランティアの日」です。レポートは広い。どなたでもおいでなさい。



野良仕事を終えた父と母
二人とき、農家の出。近くの
人が、タタで畑を使わなくて水
る。私と時々手伝わされる。



干潟の思い出

(日本野鳥の会・千葉県支部報
「ほおじり」No.6・7より)

森田三郎

京成電車のセンター競馬場駅前(旧駅名は「花輪」)には、カワセミがいつも見られ、どこまでも続く遠浅さの干潟には、生き物がたくさん見られたそうです。

そんな頃の船橋市に育った、森田三郎さんは、今でも、心の中に《干潟》を大切に持ちつづけています。森田さんの活動の原点は、幼い頃に豊かな自然の中で、イタズラしたことにあるのでしょう。森田さんに、昔の干潟で遊んだ頃のことを書いていただきました。

—三郎、母ちゃんはよ、お前が夕方暗くなってから、海から遊んで帰って来たら、それで垣根のあつちから、「かあちゃん、ただいま」って言ってな、ニッと笑うんだよなあ。そんでな、お前を見るってえと、まっ暗いなかよ、ちょっとわからねえんだよ。そんとな、お前の目と歯だけが白くってよ、つつ立ってんだよ。母ちゃん、ギョッとしてよ、がっかりしちゃうんだよ。これが、わたしの生んだ子かしら、って思ったよ。

—お前は、母ちゃんとか、よくぶんぐられたって言うけどよ、お前のイタズラってきたら、一通りじゃなかったんだ。ただけどなあ、母ちゃん、お前が憎くてぶったことなんか一度だってねえど。

あん時、貧乏してた。着るもんなんか、あんまりなくてな……。んで、母ちゃん、いろいろ工面してよ、朝、ちゃんと服着せてやってもな、夕方疲れて仕事から帰ってくるとよ、お前はきったなくなつて、服なんかカギ裂けだらけだよ……。わが子ながら、乞食か土人みてえんだよ……。垣根の木戸んそばにはよ、お前がしてかし

たイタズラに文句言うべえと思ってなあ、近所の人立って待ってたんだよ。「お宅のサブちゃんを野放しにしないでよ」なんて、何回言われたか分ねえんだ。

庖丁なんて買ったって、すぐノコギリみたくしちゃうしよ、台所のオケだつてザルだつて、みんなデコボコで生臭えんだもん……。

—すげえかったんだから、お前は……。んだから、母ちゃんヒステリーなつちやつてなあ、手近かにあるもん取つて、たたいたんだよな。そんなことだから、うちのハタキだつてホウキだつて、すぐ、ぶつくれちゃうってな、まちょうな(「ちゃんとした」の意味の方言)もんねえんだよな。しょっちゅうだから、母ちゃんの手も痛えしなあ……。

—んでも母ちゃん、お前が疲れて死んだように寝ているその顔見とな、泣きながら寝たもんだから、涙の跡が残ってたんだよな。んで、母ちゃん考えちゃったんだよ。あんなにまで、なんで怒ったのかって……。

お前がこんなにまで遊ぶのもよ、うち帰つて来ても母ちゃんはいねえから、母親として何もしてやれねえしよ、オヤツだつて、遊ぶオモチャだつて買ってやれなかったもんな……。親の目から見ても、お前はずいぶん殺生なことをしたけどよ、そんなお前に、アレもするな、コレもするなって言ったんじゃ! この子はいったい何をして遊んだらいいのかってな……。

時々お前はよ、夢見て泣いてよ、母ちゃんせつなかつたど……。もとはと言えば、みんな母ちゃんだったんだよなあ……。そしたらよ、母ちゃんよ、涙が出て来ちゃつてな……。

随想

「おふくろ、オレに巧徳、

を積ませろッ、そう言ッて肩をさむッ。テレかくー

だ。二〜三回手を動かせば、ど水くうり肩がこつてりるか、すぐ巾かす。少時くすと、だんくと母の肩が

やわらかくなつていくのだ。

「この世にオレを産んでくれたこと、一言で言

えばそれを感じ謝している。

——とこころで、母に、母はどう思っているのだろうか。

草モクを作った母

草を近くの田んぼや野からとってくる。作りながら信州の故郷を想い出すのだ。



ふかんど

第29号

1981年
8月31日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

△干潟の後背地、草はらサア三原、沼なぞに、キャンシマの大編隊が見られ、た頃の谷津干潟

谷津干潟よ 甦れ

多くの家の南側に、ひと際大きな樹が海に向かって立っていた。少年時代、木の葉に顔をくすぐられながら、私はよくその樹に登った。登れば海があった。広くて大きな干潟が見えた。私は樹に登るのが好きだった。広い大きな干潟が見えるから好きだった。どんなに怒られ、何回父にぶんなぐられたって私は樹に登り、一人勇壮な気分が湧いてきた。当時、私は両親が働いている貧しい家の一人の少年だった。

マキ割り、水汲み、庭そうじ、朝夕のご飯とおつけをつくることなど、それらは子供の仕事だった。家の用をきちんとし、親が帰ってくるのを待つのはいい気分だった。でも、そんな日はかりではなかった。干潟で、沼やヨシ野で、野原や小川で、私はたくさん生きものたちと、すつ飛び遊んでいた。うちの用もせず、日暮れまで遊んでいたといったら叱られ、はだして家を飛び出し、夜の海辺や高い樹に登っては海を見て泣きじゃくっていた。

夜の木の上、暗いしげみから、家中うまそうに夕めしを食べているのをじっと見たこと、そんなことをしようころもなく繰り返していた……

(森田三郎ノット「谷津干潟の思い出」より)



夏の間は埋め立て地は砂漠のように暑い。眩しい目がくぼんでくる。ただ黙々と、エンピツとノットを持って一人歩いた。調査距離、約一千百km。それをもう三年も続けている。すべては環境保護の資料にするためであり、谷津干潟が野鳥にとりていかに大切な休息地、採餌場であるかを証明するためだった。七十六年の調査では全部で二万一千六百九十個、谷津干潟周辺には六千近くの卵があった。

年々減っているから調査はだんだん楽になると、

森田さんは淋しそうに、怒ったようにボツリ「埋め立て地全部を残してくれ。開発はいけないといっているんじゃない。干潟の周りに少しだけいいから、シロチドリたちが卵を産める所を残して欲しいんだから。保護して人間の力を圧倒的に強いんだから。保護してやらないと全滅の一途です。県の企業庁に陳情に行くと、無料で提供するわけにはいかなないの。辺境、買つて何処、とても買えない。

森田さんの運動はすべて無報酬。費用は自前である。干潟の周りに百三十本の立て札を立て、二百本の木の苗木を植えた。流木を利用して、干潟を訪れる人のためにベンチとテーブルを草むらに作った。その数四百四十個。その他、ピラを配る、干潟の掃除を毎日するなど、無私な行為といえる。努力、悲願ともいえる情熱に、ただ敬服し、圧倒されながら胸が熱くなる思いであった。

新聞や雑誌にすでに発表されたが、去年の六月、日本で二番目にセイタカシギの孵化に成功したのも、ひとえに森田さんの尽力にかかっていた。

これもこれも新聞店に勤務しながら、干潟を守る会にも入っていたけれど、だれに協力を求めるでもなく一人したことであった。それが事の提供が現れ、一般の賛同者も少し増えてきた。

「なにがなんでも一人で、というわけじゃないけれど、一人でもやるという気持ちでスタートしました。だから手伝ってくれた時は、ホーナス、ですな」

今年三十四歳、本の好きな人である。政審は約四万冊。地蔵が来ると本に埋もれて死んでしまうのもう一つ別に小さなアパートを借りた。おもしろくなくなって大学を中退後——高校も大学もすべて自力で行った——約十年間、朝夕新聞配達を続けながら好きな本を読みあさり、買い求めるためにほとんど東京中の古本屋を歩いた。今はそれもやめた。

谷津干潟を守る会、野鳥を守る会(森田さん)も両会に入会している。その他保護団体の努力の甲斐あってか、来年、ようやく谷津干潟は国鳥保護地域特別地区に指定されることになった。一歩前進——。しかし、それで解決はしたわけではない。鳥や魚が安心して生活できる谷津干潟は、まだまだ遠いのだ。営巣のジグザグ調査は今年もやる予定である。

やさしくも強靱な人、いや少年だと思ふ。「鳥の観察をしたり、カメラを構ったり、そんな楽しみは全部、ノシをつけて人にあげます。

鳥たちが干潟に生活していること自体がぼくには嬉しい。そんな所があるという、その喜びはぼくがもらいます。森田さんが、たった一握りの少年の日の夢を手中にできるのは、いつのことであろうか。

1千葉TV
1ネットワーク・千バ
54・2・NO 23

学校から帰るや、緑側にカバンを放り出して、森田少年は毎日のように、鉄包玉のように干潟めざして走った。田んぼを突切って、野原を突切って、草原を突切るとようやく砂浜に出る。砂浜に向こうに、干潟はかけろうで大きくユラユラ揺れている。灼けた砂をかつき上げて一目散に海へ出ると、干潟は急にワイドスクリーンのように広がった。

干潟には幾種類もの鳥が翔び交い、魚が群れ泳ぎ、提防を境にして、内陸には野原や田んぼが広がり、昆虫が飛び、花が咲き乱れていた。干潟一帯は真水や土に棲む生きものと、海の生きものがうごめいている。まさに子供たちの楽天地であった。

開発、開発で時が流れ、楽天地、干潟は次に埋め立て地と化し、工場が建設され、公団住宅や家が建ち並んだ。森田さんの少年時代は、コンクリートの下に埋もれてしまった。四年ほど前、新聞の写真から、現在の谷津干潟がかつて「ふかんど」と呼んでいた所だと分かった。

ふかんどだけは残っていたのだ。懐かしさと共に、昔の思い出が急に蘇ってきた。同時に変わり果て、ゴミを捨てられ、下水をたれ流され、黒く汚されてしまった「ふかんど」が埋め立てられなかった。また、埋め立て地の下に沈んでしまった魚や貝たちのことを思うと胸が痛くなった。

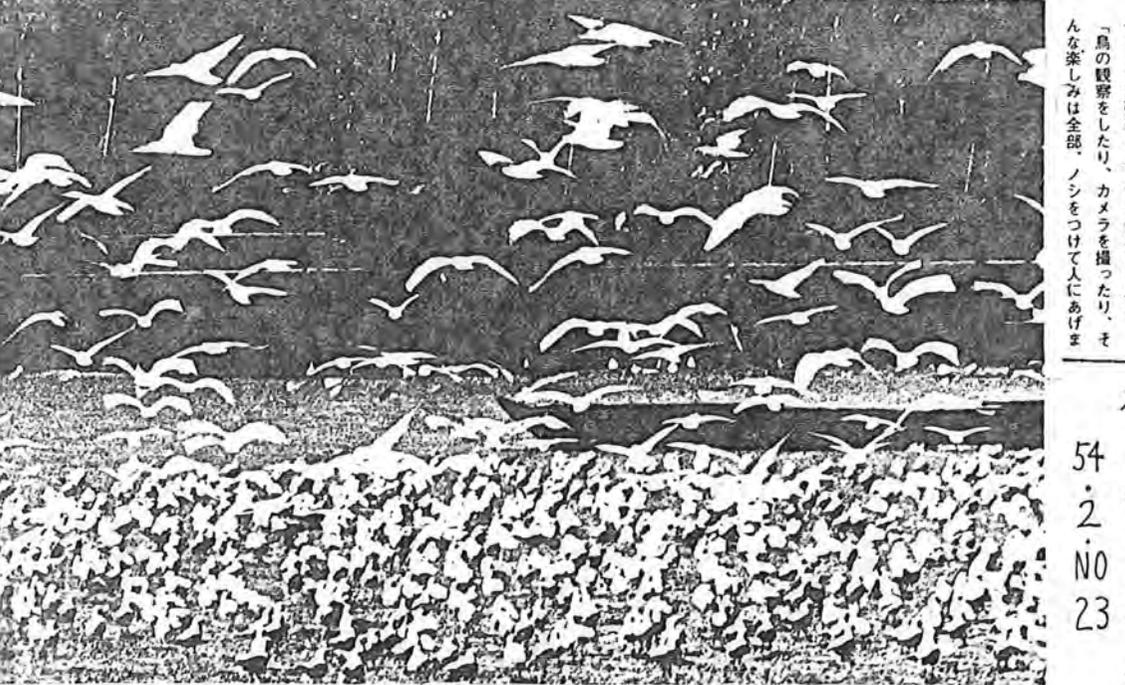
思い立てば失の如し。森田さんの谷津干潟を守る運動が始まった。干潟は何百分の一に減ってしまったけれど、鳥や魚たちはまだそこで生きている。ただ残したい、守りたいと思った。単に自分だけの思い出だけに留めたくもなかった。かつて干潟で遊んだ人間の一人として、今の子供たちに残してやりたいと思った。

森田さんの活動の徹底、猛烈ぶりは驚異的である。

最初に断行したのは、越前から幕張までの全埋め立て地域二千五百に渡ってシロチドリ、コチドリ、コアジサシの営巣状況を、四月から八月の産卵期にかけて、シラミつぶしに歩いて調べるという調査であった。巣を見落さないためにジグザグに歩く。それを荒川から幕張までやると7、8日かかる。終るとまた最初の地点に帰って同じことを繰り返す。それを八月の終りまで続けると、そのシーズンの巣の数と分布状態が分かる。こんな気の遠くなるような調査は、もちろんだれも併戦したことはない。

「なにかなんでも一人で、というわけじゃないけれど、一人でもやるという気持ちでスタートしました。だから手伝ってくれた時は、ホーナス、ですな」

今年三十四歳、本の好きな人である。政審は約四万冊。地蔵が来ると本に埋もれて死んでしまうのもう一つ別に小さなアパートを借りた。おもしろくなくなって大学を中退後——高校も大学もすべて自力で行った——約十年間、朝夕新聞配達を続けながら好きな本を読みあさり、買い求めるためにほとんど東京中の古本屋を歩いた。今はそれもやめた。



① ↑

② ↓

③ ↓

④ ↓

⑤ →

1 谷津干潟には今も年間50万羽、約150種類の野鳥がやってくる。全国でいつもしら位以内にランクされている。

2 昭和30年当時の谷津干潟。朝は4kmにも渡って引き、地平線は見えなくなった。

3 炎天下、ただただ調査を続ける森田さん。昭和51年の越前、幕張間全埋め立て地域のシロチドリ、コチドリ、コアジサシの営巣調査1点が1巣。4は京葉港、幕張地区のみ。営巣は全部の鳥を合わせて4、876。卵の数は全部で12、956個。

5 流木で作ったベンチとテーブル40個。

質由は、谷津
干潟愛護研
究会まで

「谷津干潟ボランティア」についての連絡は 0474・51・7054 (長塚) , 又は、0473・38・6668 (森田) まで。

へ小かんどりーヨシ野の中の水たまりで、マジチ箱大のカメガキでたくさんとれた頃...

ふかんど

号30号

1981年
8月31日

谷津干潟愛護研究会
〒202 市川市本北方二ノ三五ノ六
電話 0473-311666
文責 森田 三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

赤旗
八七八・五二八

干潟と野鳥



千葉県幕張・谷津

十日から「幕張干潟」。しかし、野鳥が営巣し、ひなを育てる干潟は、草地、森などは次々に埋め立てられ、切り開かれ、生息する場所が少なくなっています。はるばるペンギンや南洋諸島などから渡ってきた野鳥たちの姿を、千葉県幕張、谷津の海岸に見てみました。

砂地にわいた卵が三つ。昔は潮干狩りができた千葉県幕張海岸。しかし、いまは海はのちもかきもたぐ、うす汚れた地



森田三郎さんが調査している埋め立て地(黒い部分)



シロチドリの子と卵の数を記録していく森田三郎さん(千葉県幕張の埋め立て地で)

すみかを追われる渡り鳥

リアから渡ってきた鳥です。あたり一面は砕かれた貝殻が

立地の野鳥を調べている青年。干潟の保存・保護に情熱を傾けているんですが、そのまがな

「シロチドリは干潟の鳥。カニやゴカイ、小魚などを食べ

ています。「キー」「キー」。アシサンが数十羽、水辺から飛び立ちました。ユリカモメやハマシギもいます。潮を見ると、大きなしゅんせつ船が二隻、海鳥の砂をさかんに掘っていました。その海水まじりの砂が太いパイプで埋立地に送られ、干潟がどんとつぶされてしまったのです。

幕張埋立地は全盛かも... 幕張埋立地は全盛かも... 幕張埋立地は全盛かも...

ブルドーザーが地ならしした埋立地にシロチドリの卵が...

まじった砂地。ブルドーザーのキヤタビの跡が縦横に走っています。よく見ると、その近くに砂地をおわん型に掘ったシロチドリの巣があり、かわいらしい卵が三つ並んでいました。この鳥はオーストラリア、ニュージーランドからきた渡り鳥です。「砂や貝殻の殻に穴をあけてから、卵を産む」といって注釈していただきました。幕張の森田三郎さん(千葉県幕張の埋め立て地)は三年前から幕張の干潟埋



ヨシサシのひなが親鳥をよんでいます。

谷津干潟をよびたい。幕張埋立地の干潟のうち、埋め立てられずに残っているのは谷津干潟くらいなもの。その貴重な干潟も安全とはいえない状況です。周囲の干潟が埋め立てられ、たまたま、同干潟だけは国指定されたため残りましたが、湾内野鳥の糞排水が流れ込み、くまににおいがたちこめています。そのため同市が埋め立てを要求しているのです。

「おじさん、この谷津干潟ってささいなよ、お願いわね」。アサリをとっていた小学生の女の子たちが、森田さんに質問していました。

繁殖調査随感

首都圏の目の前、それこそすぐ足ととに、一〇〇〇〇東以上の渡り鳥の繁殖地があったとは、誰と信じないだろう。私がやって来た、このような調査、その体験は、とはや誰と、やって二度とめぐり合うことなどないだろう。

今や消滅し、過ぎ去ってしまっただけは、埋め立てという、巨大な開発のハザマ。一時のアダ花。だったのだろうか。それは十分承知していた、わかっていた

。ただ、私としては、その奥底を、ありさまを確と把握しておきたいと思ったのである。

ホシのフガの向の、彼ら渡り鳥の「生きざま」を、一ツカリと、目で耳で、足と鼻で、全身をこらして見とどけたかったのである。個人、非力ながら、能う限りの力をそらに打ち込んだつもりである。想うに、私は「幸運」だったのである。

繁殖調査シリーズ④ これについての問い合わせは、森田三郎まで。

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会



その昔、富津から市川にかけての海沿いの七六は気も違くなるよらな広大な「ふんど」と呼ばれる干潟であった。

私のカレンダ―

「谷津干潟を守る会」 森田三郎さん(34)

魅れ! 谷津干潟

無策に怒る熱血漢

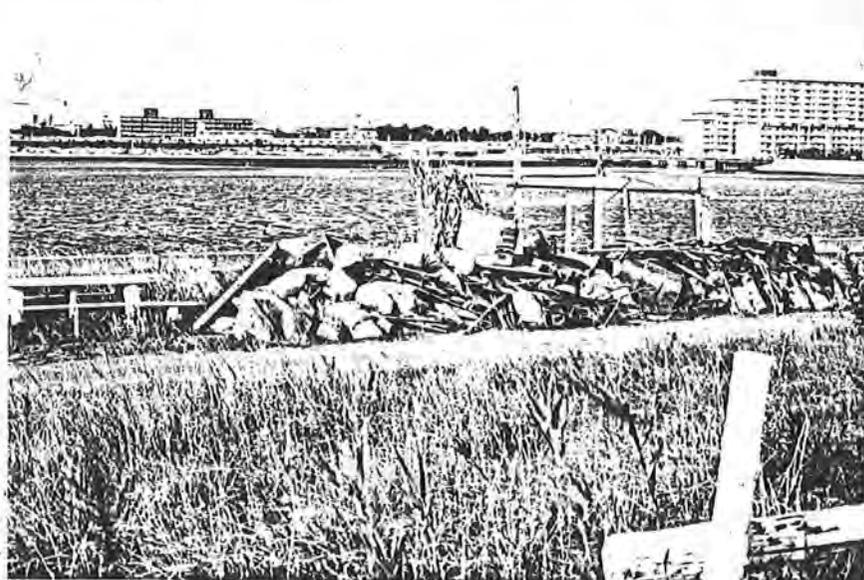
「一見して多いと思うでしょうが、全体から見れば大減額してゐるんです。昔はあちこちの干潟や池に懐んでいた鳥が棲むところがなくなつてここに集まつたに過ぎないのです」と語るのは、この谷津干潟の番人、森田三郎さん。むろん、番人とは言つても公務員ではない。すべてボランティア。費用は新聞販運勤務のほかに財布から出る。

谷津干潟の
「ボランティア」
それは、有志から成るものである。すなわち、自分たち
の住んでゐる所を少しでもきれいにしたい、谷津干潟を残したい、守りたい、その為何
らかのことを自分でできること
とを「したい」という人ならば、
どなたでも参加・協力して
いただくというのが目的である。
どんなこと、どんな方法で
と大歓迎なのである。たとえ

は、①、鳥を見たい人は見る。
②、土人小屋を作ったり、修理
したい人はそのようにやる。③、
干潟の環境美化したい人は、そ
れを。④、カニ・魚・貝、シー
アール鳥をさつ影したり調査し
たい人は、それを。⑤、テー
ブルやベンチの修理やペンキぬ
り。⑥、干潟でごはんを食べた
り、散歩したい人。ETC。一
要するに、誰でも、干潟に
入でき多くの人に来て下されば
それでいいのである。
何故ならば、谷津干潟は、皆
んなの力で守るそのなのです。

谷津干潟は「バロメーター」

もちろん、習志野
市のである。現時点
においては、まず失
格だ。対策、するわ
ず、谷津干潟に対す
る市当局の姿勢は、
ひと言で言えば、自
治体として、無責任
であると考えざる
を得ない。
下水については、
これはととく自治
体が、各自の責任に
おいてやるべきもの
今の常識では通るまい。



谷津干潟「ボランティア」
作業によって、干潟のゴミ
が徐々に引き上げられてい
る。(谷津干潟クリーン作戦

へ今は船取線の下に、フックレ堤防がある。のびくとエビがはね、顔や肩に痛かった頃……

ふかんど

第31号

1981年
9月1日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五〇六
〒272 電話0476-1-1666八
文責 森田三郎

2000年 読誌

PRINTED IN
ふかんど

ふかんど 30号を越えて

「森田さん、どんな小さななどのでいい、あなたはあなたなりの、自分の会報みたいなのをのぞき作りなさい。野鳥の会や干潟を守る会の会報を頼っちゃだめだよ、あなたにはそれだけの力が有るよ」。

それがキッカケで作った。オ一号は、昨年六月。奥を言うのと、私は、それまで編集の経験と、知識を全くなかつた。

たのである。会報らしきものを作るにしても、その為、どのような種類の文具品を使用したりよいか、本当にまるで見当がつかない。だから、町の、私がよく原稿用紙を買っていた文具店のオヤジさんに、事の次第を説明して、相談して、ひとつ、又ひとつというぐあいに教えてもらった。わからぬ事、困った時には、その都度聞いたのである。

「ウエダ」という文具店だ。

た。面倒がらずに、よく話を聞いてくれ、そして手とり足をとる如く、親切に教えてくれた。時々、夕夕で品をくれたり、サービスしてくれたり、七十円どころ、中古のコピー機もくれた。コピー機は使いきれなくて返さしてもらった。

オヤジさんは、私のことを、新聞やテレビで知っていたとの事。

「ふかんど」という名前前は、改訂ジャーナリストが付けてくれた。二一三号で息が切れてつぶれてしまっただろう、その人は後で言った。

たどくしく、不細工に作り始めていた頃から、現在に至るまで、終始変わらずこの私を励ましてくれた人がいること、私はうれしく思っている。その人は、テレビ関係の人である。

奥に、「ふかんど」は、自然保護関係の人でなく、全くどうでもよい人々のおかげで、ここまで来たのである。

楽園の子供達

干潟の子供達

絵と文 森田三郎

(第9話)



それは、広い干潟のまん中であつた。そこにいと、自然と大きな声をハリ上げたり、思い切つて駆け出したり、飛びはねたりしたくなつてしまふのであつた。とても、ジツとながしていられたかつた。そう、動物的になつてしまふのだ。

サンクと照りつける真夏の太陽のもと、オチンチンを丸出しにして、「キャッ」「ニョウ」と笑つと、陽焼けた子供たちの目と歯だけが白かつた。

そこで僕たちはやったのだ、「土人」や「ターサン」ごっこを。体じゅう、干潟の砂をドロドロに塗りまくつた。手も足もお腹も、お尻や顔までベトベトとくっつけて、身も心も、ほんもの土人になつたつもりでいた。そしてそのまま干潟の上を力一杯駆けまわつた。潮だまりの中を、背よりも高くしぶきをハネ上げて突っ走ると、砂がとけるように流れ落ちた。それがとつてもうれしくて、愉快でならなかつた。深い所へ、飛び込みながらフツ倒れた時なんか、もう、「いっぺんにキレイサッパリ」。

それを見届けると、「ニッ」とするが、「どおだあつ」と言つて笑いこけていた。

でも、それよりも、海草のほ

腰ぐらゐの深さの所など、あんまりたまっていたので、泳げなかつたのは勿論、足や腹、腰に藻がつつかえてしまつて歩けなかつた。ザブンと水にもぐつて水面に体を出すと、藻がいつぱいからみついて、顔もわからなかつたほどだ。そんな時、僕たちは、「オバケだどおー」とか、「オレだあれだあー」とか、なんて言い合ひ、ケラケラ笑ひこけて、カワウソの如くかきめくりはしやぎまわつていた。

海草を、腰や首、肩に出来るだけいっぱいまとわり付け、片手にフジツボや貝がビツシリ付着した流れ竹を持つ。それが土人のヤリだつた。すつかり土人やターサンになつた僕たちは、踊り、とび跳ね、走り、体をくねらしては、叫び合つたのだ。

「キャウホーキャウホー」
「土人だあー」
「アオオオーアオオオー」
「おどれええー」
なんてくあい。

そんな時、赤銅色にやけた子供たちの肌は、潮に塗れ、ピカピカ光っていた。藻から飛び散る水滴も、夏の陽でキラキラと輝いた。オチンチンも、潮風の中でゆれていた。

それは、きつい海草の匂いと、ジーンと鼻をつく潮の香りが、干潟の子供たちの心と体に、強くうつたえるものがあつたからだ。

(干潟の想ひ出の中から)

「月刊・ならしの」ヨリ

ふかんど

第32号

1981年
9月2日

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

講読年2000

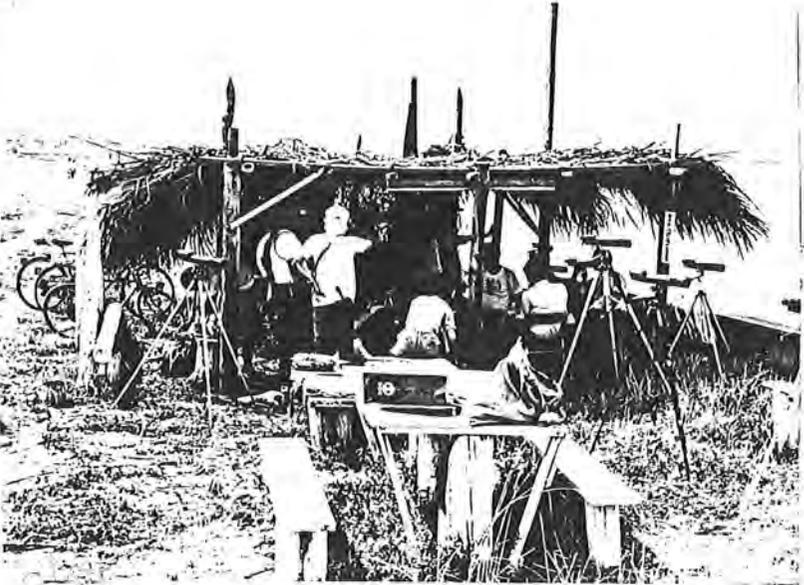
PRINTED IN
ふかんど



千葉県船橋市の谷津干潟では知らぬものがない熱血漢が森田三郎さん 生まれ育った海岸が荒れ果て そこにいる生きものが追われて行くのを守るため「干潟を守る会」を作って保護運動に立ち上がった しかし自分の体を張った実践以外に手段はないと悟ると1人で黙々と干潟の清掃をするようになった 拾い集めた流木で観察用のテーブルとベンチを210組も作り上げ 松の苗木200本を植えた 森田さんの運動は すべて無報酬 費用はすべて新聞販売店勤務の とぼしい財布から出る

1979.5.29
「サンデー毎日」
東 康 史 氏
写す
於：谷津干潟

谷津干潟名物土人小屋



役に立っています。

自然味、涼味まさに満足です。下も、利用する人の大部分は、土人小屋のみならず、テーブルとベンチが、誰が作ったのかわかりません。聞かされた限りでは、県が市が作ったかと思っております。いろいろのことです。

私達は信じています。ホ

ランテアのボランティアたるゆえんはよくにあるものだといふことを。

会員の皆さん、ですわ、「なんだあ、オレ達が汗かいて作ったって、他の見も知らないうちから占領さかちやって、ちつとき使えぬえいやねえかあ」なんて言わたりで下さい。もちろん、私は十分わかりすぎた程わかっております。

健やかにかに玄月で松の木よ！

汝は知らんトヤ

その昔

白帆をなびく

大いなる

遠浅うみの彼より

吹く潮風の

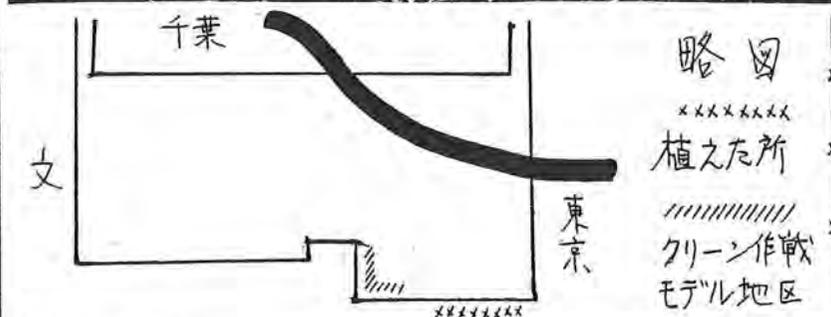
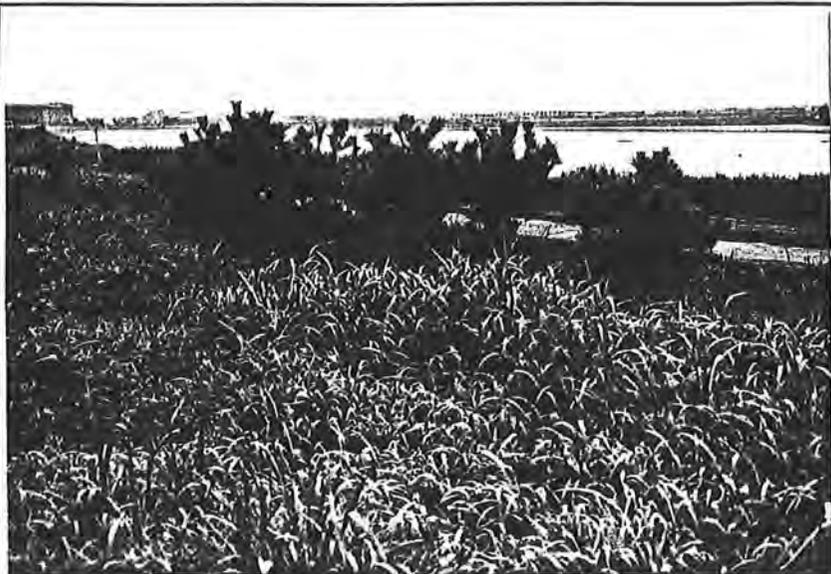
ありたるを

(千鶴日記録より)

五十二年、五月に植えた。その後、毎年夏になると、必ずいこに行くのである。念りに、今年も行つた。「どれくらい大きく育つたのか

なあー、と、いんな思ひで。

夏くさの、草いぎれの中で、緑をみずみずしく育つてた。いろいろと災難にあつて、百名のうち主残者四十五名である。来年の夏まで、松と私達の圃には、どんなことがあるのだろうか！



公害対策ニュース 51.11.20

八葛南地区埋立公害対策委員会

谷津干潟に自然が帰って来た

森田三郎

谷津干潟愛護研究会
谷津干潟自然教育園長

谷津干潟にハゼが、ボラが、そしてセイゴ達が帰って来ました。それも非常に沢山。辺り一面に群を成して、水音を立てて泳ぎまわっています。天気の良い日の休日に袖ヶ浦団地側の方へ行ってみると、水路や干潟の中へ沢山の人が並んで釣り糸をたれている光景がみられるようになりました。浅い水際ではムツゴロウにそっくりのトビハゼが水の上をピョンピョンはねていたり、干潟の砂の上をチョロチョロとはって行くのは、とてもかわいらしくユーモラスです。まさかと思っていたシャコさえも帰って来て、谷津干潟の砂の中で寝みつくようになりました。ぼくがゴカイを取っていたら、干潟の中からノコノコ出て来たのです。もうこれで三匹目です。名前はスナモグリと言って、エビガニと似ています。きつと親が干潟の中へ卵を産んでいったのでしょう。カニもものすごく増えて、見渡す限りカニだらけです。大きいのはヤマトオサガという名前で、手当たり次第いくらかでもつかまえます。昔、植木屋さんが天びん棒で大きなかごをかついで来て、山程取ってギョウギウウかごの中へ押し込みこやしにしてみました。ヤマトオサガよりもずっと体は小さいが、かわいらしいちっちゃなハサミを上下に振り動かしして体操する、チゴガニと呼ばえる大群も増えて来ました。ぼくが少年の頃はチゴガニのことを、「体操ガニ」と呼んでいたのです。昔は広い干潟のあちこちで彼らの巨大なマスゲームが演じられていました。しかし、全てが埋められてしまった今では、たった一つ残された谷津干潟にしかその姿を見せなくなりました。私達の目で見ているヤマトオサガも体操ガニも、かろうじて生きのびた遠い昔の、かわいらしい子孫達なのです。この前、干潟の中で投網をしてる人がいました。そこいらじゅうにビシャビシャと音を立てて泳ぐ魚の群の中へ網を打つと、40〜50匹のボラ、セイゴ、イナ、ハゼが入っていた。ハゼは湧くようにいて、ズボンとシャツをまくって潮の中へ入ってゆくと手づかみでハゼが取れるし、足の裏で踏んだり、その下にもぐって来てしまふ程です。釣りをするのがばかみたいだ。ゴカイなど、一回手で掘ると10匹位取れるし、シャベルで掘ったらなんと50匹も取れるのです。

昨年、習志野のプロジェクトチームの結論では、谷津干潟はこれ以上良くならないと言いました。しかし、現在のところではその反対となつて、カニも魚もゴカイも昨年よりもずっと増えてしまいました。水路の工事をした分だけ海水の流れが良くなり、海の生きもの達が谷津干潟の中へ入って来てしまったのです。工事中でまだ水がにごっているにもかかわらず、もし、京葉港が完成して、若松団地の前の干潟が消え、谷津干潟が埋められてしまったら、私達は勿論、京葉、葛南地区の何千万という少年達は、どこで魚やカニ、そして鳥達と身近に接することが出来るのだろうか……。たとえ、昔とは比べものにならない小さな干潟でも、ここに書いたように必死になつて生きようとしている谷津干潟を自然教育園とし、次の世代を担う子供達のために残すのが私達大人の、かつての広大なそして青く豊かだった海を経験した者の務めではないだろうか。

森田さんは少年時代、いま、若松団地が建っている干潟で遊んで育ちました。その想出をすばらしい絵に描き、テレビや新聞等で何回も取り上げられました。毎日のようにバイクで埋立地の自然パトロールをして、真黒に陽にやけています。何が何でも谷津干潟を守りたいと力一杯活躍しています。

※※※※

1981. 8. 19 P.M. 2:30

エリカモ 14羽
 エサギ 5羽
 水の世話を 白鳥 (シロフクロ)

はねのねと 鳥休みの自由研究
 をおねと 秋津に頼る。

市川町 秋津の尾の 2ヶ所を 2ヶ所と新聞で見。やるとPLM.
 市川の鳥と魚の 万葉の 鳥の 地産を努力して 鏡の
 秋津の 園芸の 鳥の 字が 2ヶ所ある。 4ヶ所 お役所へ 2ヶ所は
 秋津の 鳥の 鳥の 2ヶ所ある。 4ヶ所 お役所へ 2ヶ所は
 秋津の 鳥の 鳥の 2ヶ所ある。 4ヶ所 お役所へ 2ヶ所は
 秋津の 鳥の 鳥の 2ヶ所ある。 4ヶ所 お役所へ 2ヶ所は

自由研究でここに来ました。 ↑お母さんと ↓娘さん
 砂地のところを見ていると、
 貝のふたがあくように何か、決まらずに動いて
 いました。
 オペラグラスで見ると、それはカニが穴から出るころで
 した。
 私の住んでいる市川には、こんなことは全然ありません。
~~鳥~~川もよこれて、鳥などは見られません。
 こんなにかわいいとや、カニのためにも、この干潟をいつ
 までも残してもらいたいです。 6年 吉田

干潟通信箱

谷津干潟のまわ
 り、3ヶ所があり
 ます。干潟を利用
 する人達の為には設
 置しました。
 感想・意見・質
 問・希望など、何
 だけっこうです。
 ラク書きとい
 のですが、イヤラ
 シイのは、余り飲
 用しません。

8/25 (初めに)ユキエ〜ッ! M.Nじゃ!
 (K) あま、泳げたいのか〜? (ネコ語を使うが、ニャか田ではない)
 ↓
 せん をやってないのた。だから、干潟のシギ・チドリをけんさ
 うをすることにしたらしいので、今日も来たのだ。
 ・調べたいことは、鳥が何を食べているか、シギ・チドリは潮期によって
 どのように移動するか、どのような深さのところを好むのか、あと、干
 潟に来るシギ・チドリの特色です。他になにがあったら、ノートを通して
 教えてください。けんさうのやり方も何かヒントがあったら、知らせて
 下さい。待つとります。

(この娘さんは、秋津中学校の
 生徒で、谷津干潟が研究テーマ)

話はかわって
 今、潮がだんだんあがってきてます。
 チュウシャアが水浴びしてる〜! おしも泳ぎたい〜!
 またかわって
 干潟のシギ・チドリが、カニとゴカイを食べるところは見ました。で
 も、魚を食べるところは見ません。魚を食べるものはいるのですか。
 またまたかわって
 ウミネコの幼鳥は、羽が灰色っぽく、おとは親と同じような形の鳥です
 か。カニを食べていました。

お願いいたします
 見つけたら
 注意して下さい
 干潟のイバの埋め立て地や、とく
 に、干潟内や水路にゴミを出して
 たり、捨てるのは、やわらかい態
 度で注意して下さい。
 谷津干潟は、今がいちばんにぎや
 かな時です。魚も大分大きくなっ
 て、無数に泳いでいる。よこい
 らいゆうカニだらけ、渡り鳥の数
 に増えて来ました。よく子供が、
 石や空カンビンを、よれら自分
 けつぶつけています。親は見つ
 何も言わないのが現状なのでー。

何故、観察舎だけを目の伏にするのですか？

● 森田は、今はただただ 忍の一字でござります。 ●

谷津干潟野鳥観察舎を自主撤去

保護団体

県の意向受け入れ 論議呼ぶ楽園保存

習志野市の谷津干潟前に愛鳥家のカンパで建設された「野鳥観察舎」がこのほど、県企業庁が「不法建築物」としたため、自然保護団体が自主撤去した。県企業庁が同団体との交渉の中で白紙の状態を話し合いたいとの意向を示したため、これを受け入れた形。来月上旬にも両者の話し合いが再開されるが、「野鳥の楽園」保存をめぐるかなりの論議を呼び起すような気配だ。

来月上旬 両者話し合い

この野鳥観察舎はさる六月下旬、同市谷津二地先の県企業庁用地に「谷津干潟野鳥観察舎」(森田 二郎代表)など自然保護団体が使用許可を得ないまま建設した。このため、同庁が七月十日付で不法建築物なので撤去するよう通告していた。

同庁は東京湾奥部に残されたただ一つのもので、渡り鳥の好むの休息地となっている。広さ約四十五坪には野鳥のエサとなる魚介類のカニなどが豊富で、春と秋の渡り鳥シーズンにはカモ、シギ類を中心に約百五十種類、八千羽前後の野鳥観察舎が撤去された跡地(右)と自然保護団体の自主撤去の看板(左)。

後の野鳥が訪れるという。このため、自然保護団体では同干潟の前面緑地に野鳥観察用のベンチなどを設ける一方、干潟の「クリーン作戦」を展開するなど、開設鳥獣保護区の指定に向けて積極的な保護運動を行ってきた。

問題となった野鳥観察舎もその一つで、昨年十一月から募金活動を始め、今年六月中旬に約四十五万坪のカンパでプレハブ平屋建て(トイレ付き)を完成させた。そして、自然保護五団体が県企業庁に観察舎の存続について要請書を提出していたが、同庁は「あくまでも不法建築物、これを撤去しない限り話し合いには応じられない」としたため、今月中旬に自主撤去した。

埋立地を不法占拠するゴミの山

長谷川業務課長は言いました、「私産企業方は、県民の皆さんの財産である埋立地

をあずかる者として、自分の家の庭以上に大切にしているのです。」と。ならば、保護区指定の後には、国が県に寄付し、つなぎとしての観察舎は何故全くダメなのか。

ふかんど信条... 私達は、企業庁に愛されるよう及干潟保護をしております。

ふかんど

第34号

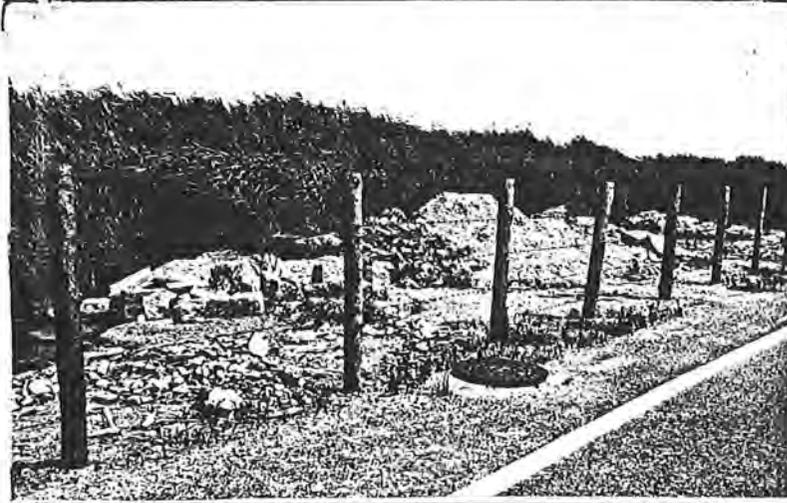
1981年
9月3日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五ノ六
〒272 電話0476-311-166六八
支 貴 森田 三郎

講誌年2000

PRINTED IN
ふかんど

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会



(婦人公論一九七七・九 北原龍三氏による)



生れて2、3日でヒナは歩き始める。

工業用埋立地に生きのびる 東京湾のコアシサシ

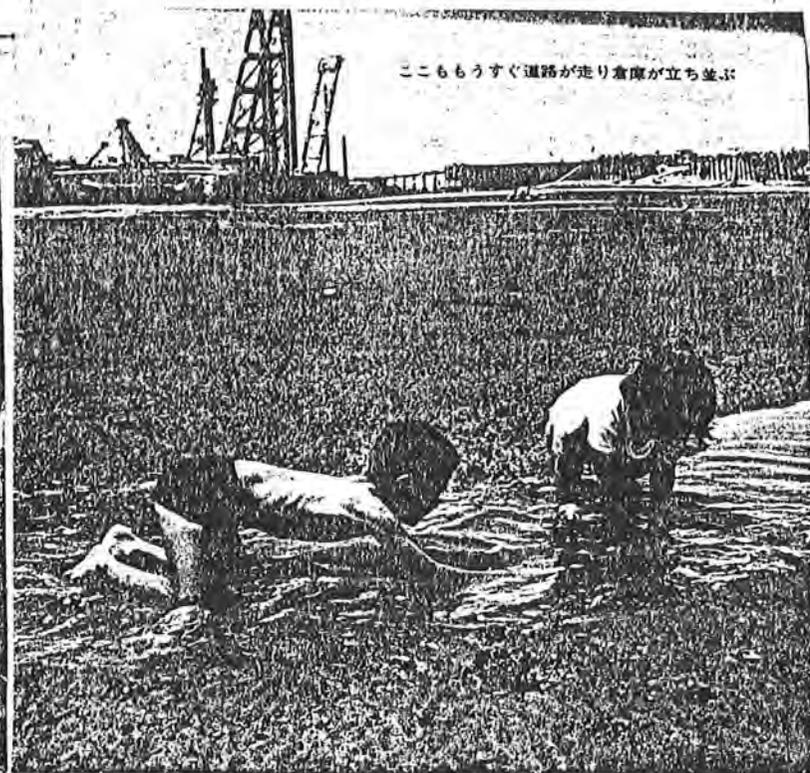
東京内湾(千葉県富津市と神奈川県藤沢市をむすんだ北原)の沿岸一七〇キロはほとんど埋立地。自然の海岸線はわずかに数キロしか残っていない。東京湾の一番奥まった所の埋立地、幕張・浦安・葛西などは湾内で水鳥たちの最後の繁殖場所といわれている。しかし、ここも東京湾の埋立地、海岸道路、工場、倉庫の建設工事など鳥たちをとりまく環境は悪化の一途をたどっている。

しかしコアシサシなどの鳥たちは結局もう他に行く所となくここに巣を作りヒナを育てている。中にはフルドージャーのキヤタビラの跡をそのまま巣にしているものさえいる。

このコアシサシはもちろん水鳥の一種で湖辺に住み小魚を採って食べている。動物の子供は何でも可愛なものだが特に雛鳥におおわれた鳥のヒナは繁殖だ。コアシサシのヒナは鶏のヒヨコをもっと小さくして色を塗りかえたような可憐さである。

水鳥の営巣状況を調べて鳥たちを守る手助けにしたいと今年で三年間ただ一人て調査をしている青年がいる。この森田青年は東京湾の埋立地のうち千葉県の京葉港埋立地と浦安、東京都の葛西など二五〇〇ヘクタールの地を雨の日も風の日も強い真夏の炎天下も一人で歩き続け調査し続けている。

東京湾が太平洋の入江のひとつとしてきたのは千二百万年という気の遠くなるような昔であるという。以来、現在ほど汚され破壊されたことは一度もなかった。われわれの時代にこの海を殺していいものだろうか。



ここももうすぐ道路が走り倉庫が立ち並ぶ



親鳥は2週間前後、卵をあたためる

長くて激しい、精力的な繁殖調査。年を追って、私の胸につのるのは、これから追々水ゆく渡り鳥に対する、バードウォッチャーの、そのモラルの低下ぶりであった。それと、渡り鳥の数が少なくなればなる程、鳥に対する思いやりのない、鳥の立場に立たない態度だった。



今日も森田さんの調査がつづく
ひなは一度に3羽生れるのが普通

新聞記事から とくに、自然保護関係 者に読んでもらいたい。

お互いを大切に認めあうことが飛び切りの愉(たの)しみを感じる喜びが持続すれば、なんと子ども達は腹の底からの笑い声をほろほらしせるのか。

八月十一日の本欄に書いたアメリカのアボルト夫妻(妻、六人と障害児十三人を育てた)の講演と映画の会が、大阪で八月二十日、神戸で二十四日あった。

私は大阪の会に出かけたが、アボルト夫妻が、いわゆる福祉関係者の独特の屈折を全く感じさせない素直で、そのまま舞台人にひけをとらない伸びやかな美しさに輝いているのが、すばらしい。

感性と知性のバランスのとれた自己表現の習慣が、徹底的に生活化されている。

新しい育児観



伊藤 友宣
(カウンセラー)

から、カメラの前でも講演台でも普段のまま振る舞うことが出来、それがそのまま他人への意思表示に買われている。わが子一人の育児にでも首をあげる親が少なくないのに、十九人の子を育てる。しかも重度の障害の子を。超人だ。

とむとく私達には、夫妻は、育児観のオペルニクスの転回を示す。子を育てるとは親が子の世話をし通すことではなく、子自身が人生の充実のしかたを見出すための援助のことだ、と。ごとう大事のポイントで、ひるまめ支えがしっかりととされる。二十四時間のほとんどはお互いの自立心を認めあう自己処理の楽しい努力のうちに過ぎていく。

韓国、ベトナムの戦禍の子も達、あるいは先天性障害で親に逃げ去られた子ども達の、最初の縁の弱い表情が、暮らしの中で、豊かな自己表現の輪郭の強い笑顔に変わっていくアボルト一家の記録映画は、人間の誇り、そのものである。

住民がクリーン作戦

谷津干潟 保護区指定迫るテコへ

野鳥の楽園「谷津干潟」(習志野市谷津)へのゴミや産業廃棄物の不法投棄が最近、目立っているが、「せつかくの楽園が汚されるのはしのびない」干潟の周辺に暮らす住民たちが協力して近く一斉清掃作戦を展開する。住民たちはこの運動をテコに、環境庁、県、地元習志野市など干潟の国設鳥獣保護区への早期指定と維持、管理体制の確立を迫ってゆく考えだ。

クリーン作戦を打ち出したのは谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)、日本野鳥の会千葉支部(代表・石川敏雄千葉大教授)、千葉の干潟を守る会(大浜清代表)で、干潟の保存を強く願っている地域住民も多数加わっている。第一回の清掃はもうとも汚されている谷津干潟付近で二十三日午後二時から実施することになった。国土地だつたため埋め立てを免れた同地区は、谷津干潟愛護研究会の森田会長などの清掃作業で、年々きれいになりつつある。また、西側水路が開放されたことも

手伝って干潟内部の環境もよくなると、ハゼなどの魚類が増えている。当初、冷たかった県企業庁も、拾い集めたゴミ類を搬出してくれるなど協力姿勢をみせるようになった。しかし、相変わらず水質汚染などの産業廃棄物の生活排水品などの不法投棄だ。

このため、各グループは再三、地元の習志野市など干潟地を愛護してきた。ゴミを捨てているのが同市民とみられたからだった。この

「野鳥の安全と自然を守る」を合言葉に谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)は、谷津干潟のクリーン作戦を呼びかけている。谷津干潟には数千人の野鳥が飛来し、東京湾に残された野鳥の最後の楽園といわれる。しかし、干潟をゴミ捨て場と間違える心ない人がいることも事実。干潟は年々汚され、シギやチドリ、サギ、カモなど野鳥の生息環境は著しく破壊されている。

そこで同研究会では毎月第百曜と第三次曜の午前十時半から正

習志野市は、市民が不法投棄してりることをよく知っております。にせがかわず、捨てられる国の方が悪いのだと、そう言っております。

(千葉ライフ No.10)

「野鳥の安全と自然を守る」を合言葉に谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)は、谷津干潟のクリーン作戦を呼びかけている。谷津干潟には数千人の野鳥が飛来し、東京湾に残された野鳥の最後の楽園といわれる。しかし、干潟をゴミ捨て場と間違える心ない人がいることも事実。干潟は年々汚され、シギやチドリ、サギ、カモなど野鳥の生息環境は著しく破壊されている。

谷津干潟の自然を守る

活動に力を発揮しよう

クリーン作戦ととも、関係官庁など干潟の環境美化と保護を訴えるなど、活動は積極的に展開されている。詳しくは0473-386,666から。

クリーン作戦
毎月1才3
日・火曜日です。
日・埋立地かわ
火-三丁目前
(谷津)

(時間 10.30~12.00)

▼干潟でゼニガメが

とれました。

最近、たつ続けに2回見つかりつております。最初は私。次は干潟を自由研究のテーマにしている中学生が。

昔は、うみの岸辺のヨシ野ジメノクーした水たまりの中でキブカミでとれたほどでした。



群がる園児たち...

谷津干潟には、幼稚園児がよく来る。若い女の先生に引率されて、ガヤク、キャア〜と笑い、しゃべりながら。

この日、谷津干潟クリーン作戦(六月)の時も来た。堤防の下の干潟では私たちが、汗だくの泥だらけになつて清掃をしていた。

私の車をめずうーそうにとりかこんだり、下をのぞきこんだりしていた。「おいさあーん、何してんのぉー、魚とってんのぉー!」と、声をかける。でも私は、「うーん、ゴミ拾いだあ」とは、すぐ言えるかった。

船橋・習志野の市街地は勿論、とくに埋立地において、都市化一歩先が危めらわっている。埋立地は至る所、鉄条網が張りめぐされ、殆んど海に出られない。しかし、人々は、何回、どの様に立入禁止にしても、そこを破り、くぐり抜けて行く。「海」が欲しいのだ。



ふかんどー見わたす限りに、体操がニカワセリに体操して、その音が聞えた頃

ふかんど

第36号

1981年
9月4日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話0476-311666
文責 森田三郎

講読年 2000

PRINTED IN
ふかんど

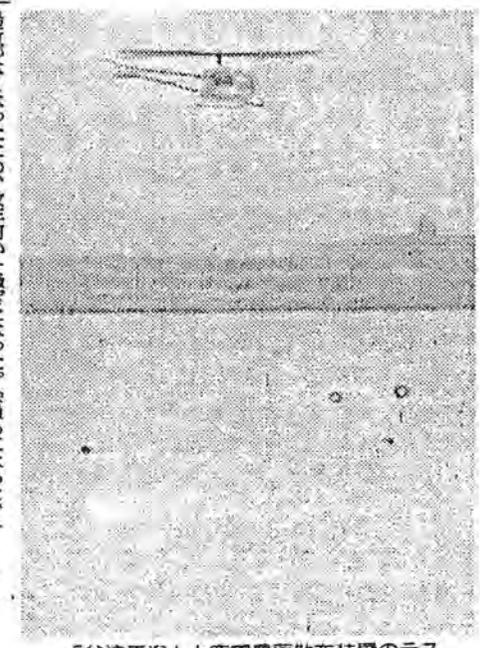
野鳥の楽園で装置テスト

谷津干潟

農薬散布前に
日本ヘリ社

保護団体が抗議へ

会社側「水なので害はない」



「谷津干潟」上空で農薬散布装置のテストをするヘリコプター = 6月21日写す

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園、「谷津干潟」に習志野市谷津川の上流で、ヘリコプター会社が農薬散布前の装置テストをしていたことがわかった。干潟の保存運動を続けている「千葉の海を守る会」(大浜代表)、「谷津干潟愛護研究会」などの自然保護団体から強い怒りの声が上がっている。会社側は「テストには水を使っているのだから野鳥には害はない」としているが、大浜代表は「タンクに残っている農薬が水に溶け残る恐れもあるし、騒音も鳥を驚かす」と、農薬散布の時期は三月、六月、八月が多いが、いつもヘリコプターに散布装置を取り付けているわけではない。機体に装置を取り付けた際には、必ず完動するかどうか試験する。テスト散布に使うのは、水なので全く害はないと強調している。以前は他の地域でテストをしていたが、適当な場所がなかったため、数年前から谷津干潟でもやっているという。

「守る会」のメンバーがこの散布テストに反対したのは、先月二十一日の日報で行われた野鳥観察会の時で、騒音をあげて干潟の上を低空飛行を繰り返すのは、大

騒音となった。会場のそばに飛ぶ鳥の羽が風に乗り、崖辺にも飛んで来て、ささいにおいがたちこめたこともあった、という。

「一九八〇年七月二日(朝日)」

現地の現状を見れば、とはやヘリコプターの飛行そのものが問題である。学校、宅地の増加、道路など、市民の生活環境から考えれば、すでに中止していただかしくない。

前面がまだ海の頃とは、いわゆる社会情勢も違うのである。そのことは、周辺の都市計画がだいぶ前に明らかになってきた以上、その具体的な対策がとれていないという事は、日本ヘリと京成の怠慢と考えられて

とやむをえないであろう。多数の人間の頭上を、ドラムカンなど、訓練の為に飛行するようでは認識が不足しているのではあるまいか。

会計報告 昭和55.6.1~56.5月末日

収入
カンパ 51000円 会費 30050円
合計 81050円

支出
会報(冷切手) 47000円 封筒 1500円
コピー 5000円 印刷 30000円
一輪車(2) 17000円 土のう袋 27000円
ベニヤ(看板用) 17000円
おつかい物(クリーン作戦に無料奉仕してくれていいる建設会社へ) 4000円
ペンとそれに合うもの 22100円
文具品 5000円 クリーン作戦案内 5000円
その他、ロープ・手袋・クギ・カスガイ・ゴミ袋・ひも・くま巾・一輪車のタイヤスペア・各種金具
各種作業道具 合計約 40000円
支出合計 234100円
差し引き 153050円の赤字

尚、森田個人に関するものは全て計算外です。
以上

へんかんど、千潟の上を、竹馬で歩いたり、戦車か走って行った頃もありました。

ふかんど

第37号

1981年
9月6日

谷津千潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五五六
電話 0476-31-1666
支 主 林 田 三 郎

講 読 年 2000
PRINTED IN
ふかんど

お時間拝借



谷津千潟愛護研究会
森田三郎さん

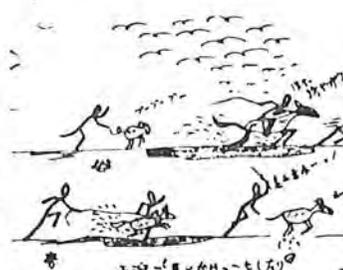
谷津千潟は東京湾最後の野鳥の楽園といわれています。その千潟を守るべく一生懸命になつていらっしゃる人たちがいます。「谷津千潟愛護研究会」の森田三郎さんもその一人。幼いころ谷津で育つた森田さんは当時の楽しい思い出を胸に、いまの子どもたちになんとか谷津千潟を残してあげたいというので

森田さんはなにか強烈な動機があつて千潟の千潟を守る会に入つたようにお見受けするんですが……
森田 そうなんです。あれはいまから四年前になるんですが、ある新聞に「谷津千潟」の記事が載つていたんです。その写真の中に「クイ」が二、三本立っているのが、非常に印象的に目に入つたのです。「あれは、もしかしたら

そのうち、そのうちだよ、昔、千潟で遊んだ数々の思い出を童話にして語り伝えたいとね。
森田 それはいいことですね。森田さん自身は読書は好きですか。
森田 大好き。現在蔵書が三万五千冊くらいあるかな？
森田 どのような蔵書がありますか。
森田 心理学、哲学、伝記がほとんどだね。
森田 昔、少しは読んだけどまだるっこしくてね。この運動に入る前は、背広のポケットにマン札ぶち込んで、朝九時ごろ家を出てマップを頼りに古書店めぐりが日課だったよ。
森田 朝刊を配り終わって夕刊までの時間にですか。
森田 もちろんそうさ。楽しかったね。

いまは千潟のことで夢中になつて居る様子ですが、ご家族の方は森田さんのこういう運動についてなにかおっしゃいませんか。
森田 オレいま三十三歳で独身なんだよ。そのせいもあるんだろけど、いつまでもお上(かみ)にたてついてないで、早く嫁さんを捜すことも考えろとね。そのうちなんとかなるだろうと思つてゐるんだけど……(笑い)。
なにか一つの目的をとげようと行動すれば、いろいろ困難な

つしやつていますね。
森田 オレはむずかしくものを考えたり、やつたりするのは嫌いだから……。子どもたちに千潟に集まってくる幾千のシギやチドリを視て欲しいし、その鳥たちが周りの草むらに卵を産むことも知つて欲しいし、この千潟の中でいろいろ遊びができることも……。本当は「投網」をかけて魚を獲るところもやってみせてやりたいし。



森田さんは「守る会」の活動としてはどんなことをやつてゐるわけですか。
森田 鳥獣保護区指定地域として残してもらへるよう、環境庁、千葉県、習志野市などに陳情や相談に行つたり、マスコミ関係に谷津千潟のPRにも行くと、千潟の掃除もやれば渡り鳥の調査もやるし……。要するになんでも屋です。

陳情の結果はどうなんですか。
森田 環境庁と千葉県は残してくれと約束してくれてゐるんですが、肝心の習志野市がもう一つハッキリしないんですよ。
現在、谷津千潟にはどのくらいの鳥がゐるのですか。
森田 種類にして25、30種くらいかな？ 数では5千、1万くらいいてゐると思う。シギ、チドリ、カモ、カモメ、サギなど東京湾では谷津と木更津が渡り鳥のゴソリンスランドになつてゐるわけ。谷津千潟にはカニ、ゴカイ、シオフキ、アサリ、バカ貝、マテ貝、シヤコなんかがゐるからね。前にもちよつとつたけど、オレは本当は千潟の中に入つて、子どもたちとカニや貝などつて遊ばせてやりたいし、鳥の卵がある場所も教えてやりたいんだよ。自然を守りながら、その環境の中で子どもたちを遊ばせてやりたいというのがオレの理想なわけ。いまそれができないから「谷津千潟自然教育園」を作る運動を進めてゐるんだけど……。その一大パノラマもでき上がつてゐるんです。

お話をうかがつてゐるときに「自然教育園」が近い将来できると素晴らしいですね。
森田 できるように応援して下さいよ。(笑い)。



森田さんが流木で作つた千潟のベンチ

谷津千潟の秋



八月、目もくらむような日射しの中で、千潟には早くも秋が吹寄せ、マシヤやチドリたちが東京湾側から谷津千潟へ集まってきました。遠くイソトネシヤやアサリ、バカ貝、マテ貝、シヤコ、カニ、ゴカイ、シオフキ、アサリ、バカ貝、マテ貝、シヤコなんかがゐるからね。前にもちよつとつたけど、オレは本当は千潟の中に入つて、子どもたちとカニや貝などつて遊ばせてやりたいし、鳥の卵がある場所も教えてやりたいんだよ。自然を守りながら、その環境の中で子どもたちを遊ばせてやりたいというのがオレの理想なわけ。いまそれができないから「谷津千潟自然教育園」を作る運動を進めてゐるんだけど……。その一大パノラマもでき上がつてゐるんです。

谷津千潟ボランティアグループ
とにかく、千潟の為に
何かをやろうという集まり。

生かげよかし
千潟のこゝろばを
季子節ごと
その時々、谷津千潟のようす、ヤーア説明などを書りていきたいと思ひました。
とりあえず、春夏秋冬ごとに書き変えていくことにします。近くにすむ田地の方たぐさん来るのです。

月刊「ふかんど」のし
(一九七九・三月号)

へふかんどー幼な心に、潮の満ち引きは、沖の彼方に大男の怪物がいて、バケツで潮をすくって
りたと思つた頃……

ふかんど

第38号

1981年
9月7日

谷津干潟愛護研究会

市川市本北方二ノ三三五六
千272 電話 0476-31-6668
文責 木村 田三郎

2000年 読講

PRINTED IN
ふかんど

クリーン作戦以前の頃

この所は今、「谷津干潟クリーン作戦モデル地区」になつてゐる。水辺の草がウツクツと生い茂り、カニが体操し、無数のゴカイがピチピチと音をたてている。潮と共に魚の大群が岸近くまでやって来て、そこいらじゅうで水音を上げ、小鳥が砂あびをし、オモガチづくりの干潟で休み、シギ・チドリの類が、人家の向成かまでエサをついばみに来るので、声が大きく生々しく聞こえる。

ひとりだった。脚に金具が入つてゐた。つまづいた時など、金具がズレたのではなつかと心配のあまり、何度か手を当つてネジの位置を確かめた。世に、谷津干潟クリーン作戦という名が表われたのは、それから約一年四ヶ月後の事。

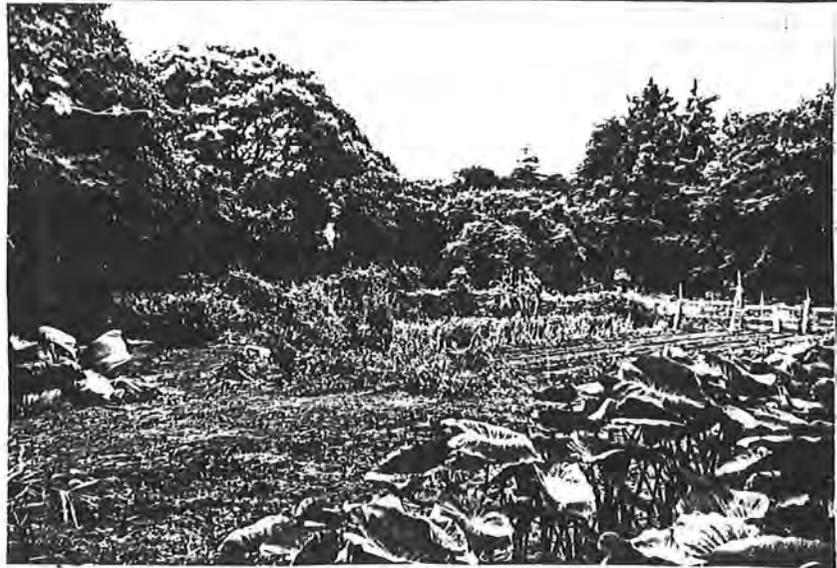


おふくろの曲辰場

おふくろはここで、よく
野良仕事をしてゐる。父と
時々いっしょにやってゐる
。土が好きなのだ。今年と
二度ばかりハチに刺されて
、手と目をはうしてゐた。
私を手伝わされる。水汲み
だ。「三郎、お前、畑に水
汲んでくんねえかあ」と。
めんどくさそうな顔をす
ると、「お前はよお、誰に
も頼まれぬのに、いっしょ
ン・ジャガイモなどである。

「ちやう干潟に行っちゃあ、
タタでまっ黒なつてそういし
てるじゃねえかあ。誰か、有
難うなんてお礼すんかあ?」
しゅべえ、でと母ちゃんはよ
お、お前に頼んでんだとお、
親の私が、子供のお前に頭あ
下げたんだとおしと、そう言
うのである。

作をつは、ネギ・シヨウガ
・トマト・キュウリ・ダイコ
と頼まれぬのに、いっしょ



へふかんど...「ららぽーと」の「やごう」の所に、昔、離れ小島があら、トビウオがはゆてりました。

ふかんど

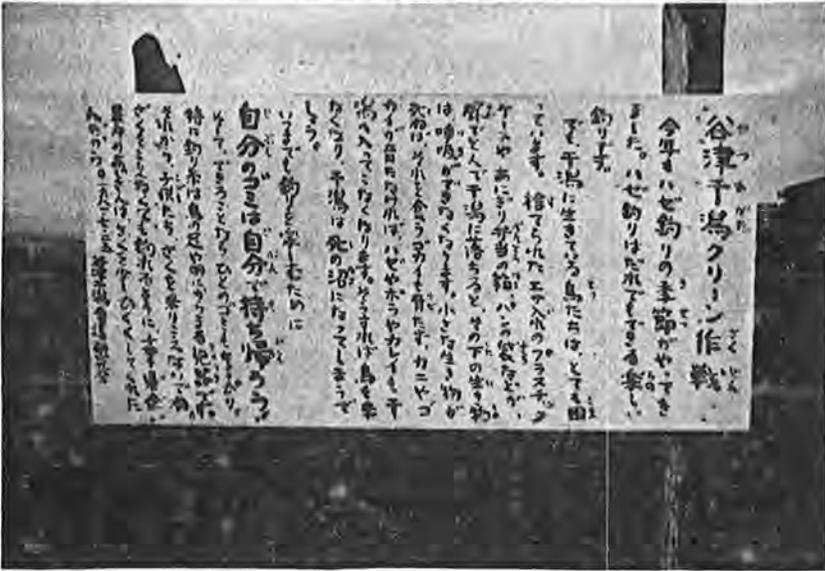
第39号

1981年
9月8日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-166668
文責 木村 田三郎

2000年誌

PRINTED IN
ふかんど



谷津干潟クリーン作戦
今年もいせ釣りの季節がやってきました。いせ釣りは水が澄み渡るきれいな釣り場です。
干潟には生き生きとした鳥たちがあちこちで鳴いています。昔ながらの風景が広がっています。
クリーン作戦の一環として、ゴミ袋や釣り具の回収も行っています。きれいな釣り場をみんなで守りましょう。

グリーン作戦の ボランティアに協力

私産にとつては、毎日グリーン作戦の日です。日曜日ごとに、会員と有志が干潟に集まり、ボランティア活動をしております。
手袋・ゴミ袋・ひざ・くまで・エノウ袋・一輪車など、すべて各人の自費で負担しております。
毎年、釣りのシーズンになると頭を痛めていきます。この辺では唯一の釣り場、きれいにしましょう。

房総週刊

「野鳥保護」に協力を
先日、野鳥の楽園、谷津干潟愛護研究会の会報「野鳥の楽園」が、森田三郎さん自作のPで発行されました。Pには、谷津干潟の生物や野鳥の悲劇な叫びを聞いたという喜びの便りや、びびに代わる森田さんの心情がにじみ出ていて読むたびに涙腺を刺激する。同時に共鳴を感じる。の風物詩もあって心なごみ内容で森田さんについてはご存じの方も多からう。干潟の番人、森田三郎さんには会報づくりの経験は任。きびしい新聞店従業員のかま。またたくまに。見よう見まね、あ。わら、すべてをかけて野鳥を守る。とは情熱がカバ。目下、いい。の野鳥の楽園(五七七) 体で今後どう時間と費用はど。に群れる野鳥はその努力のたまもの。干潟を守るため当局とも。干潟を守るためには百回、二百回も。対決を辞さない熱血漢だ。
船橋に生まれ育ち、当年三十四歳。自分が遊び、学んだ心のある。おっしゃる通り、たしかに私。さで干潟が埋め立てによって数。みそぎの場であり、鳥獣や草木。行くサマを見つめ、四十六年から。の交感の場である。とくに秋は外。運動、に立ち上がる。以来、か。へ飛び出し思い切り自然を満喫。これ十年、黙々と干潟の清掃、たいもの。干潟にはもう渡り鳥が。監視をする森田さんの姿勢は「。羽を休めているという。
とにかく年間を通しこれからは。今、軌道に乗せた会報は昨年。一番いい季節で、野外散歩を。六月から。より運動推進がスライ。む機会だ。家族とも干潟に出。で、題字は少年時代に頼んだ干。替けて野鳥を飼育。自然を愛する。の別名からとったという。文。る心を養い、森田さんに協力する。には野鳥の保護を切々と訴え、現。代の自然への反逆に対する怒りを。照す半面、かつてのどか干潟。 同 船橋支局長 木村 田三郎

楽園の子供達

月夜のカニ

絵と文 森田三郎

月の光の美しい晩、数えきれない程たくさんワタリガニが波間にたまたま。
「月夜のカニ」この美しい言葉に大人達は、カニが浮かれて出て来るのと言った。だが、ぼくの月夜のカニは違っていた。
学校から帰ると、カバンをほうりながら、干潟へ走った。お日さまが、キラキラ照りつける砂浜は、子供達の遊び場。
「オーイ、早く来いよおー」
なんと、ガキ大将のマーちゃんももう、干潟へ来ていた。ハダシに焼けるような砂の感触を、快く感じながら走った。二人、三人と、あちちからも、こちちからも友達が集まってきた。遠々と続く砂浜を、どう使って遊ぼうと自由なのだ。かけっこ、鬼ごっこ、土人ごっこ等に夢中になった。
土人ごっこのとき、体の小さいぼくは、神へのささげものにされるのがいやだった。でも、ガキ大将のマーちゃんにさからうわけにはいかないのだ。なぜって？

な、そんな夜は、たくさんのカニが、ああ、今夜の月は何んときれいだ、エエって、うかれて海へ出て来るんだとお。
「なんて、うかれんのおー」
もしかして、月夜のカニは、うかれてんではない。ほんとうは、さびしいんだ。だから、月夜の晩に出て来るんだ。きつと、そうだ。ぼくは、かつてにそう思った。
波間にたたようカニを思っ、いつまでも座っていた。



「何気なく、干潟に来るといふ言葉」
谷津干潟保存運動にとり組んで以来このかた、何十回とこの言葉、私は、干潟に来る方々から聞かされた。来ました。
勿論、干潟や野鳥、自然保護に力をつけて何に知らない、ごく普通の、血くにすむ市民からです。
心の中に、ある疑問が年々大きくなって大きくなる。何故、「何気なりのだろっ？」と。

(1981.9.6 毎日)

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会

